

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン リッキョウガクイン 学校法人 立教学院							
フリガナ大学の名称	リッキョウダイガク 立教大学 (Rikkyo University)							
大学本部の位置	東京都豊島区西池袋三丁目34番1号							
大学の目的	本大学は、キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし、学校教育法により学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を究めることを目的とする。							
新設学部等の目的	外国人留学生入試の志願者の増加を踏まえ、外国人留学生の受入れを強化するとともに、これまで「若干名」としていた募集定員を実数化し定員管理の厳格化を図る等のため、収容定員を増加する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次人	人		年月 第年次	
	文学部							
	初外教学科	4	49 (43)	—	196 (172)	学士 (文学)	平成29年4月 第1年次	東京都豊島区西池袋 三丁目34番1号
	史学科	4	214 (194)	—	856 (776)	学士 (文学)	平成29年4月 第1年次	同上
	教育学科	4	100	—	400	学士 (文学)	昭和37年4月 第1年次	同上
	文学科	4	537 (463)	—	2148 (1852)	学士 (文学)	平成29年4月 第1年次	同上
	経済学部							
	経済学科	4	330 (295)	—	1320 (1180)	学士 (経済学)	平成29年4月 第1年次	同上
	会計ファイナンス学科	4	175 (155)	—	700 (620)	学士 (経済学)	平成29年4月 第1年次	同上
	経済政策学科	4	175 (155)	—	700 (620)	学士 (経済学)	平成29年4月 第1年次	同上
	理学部							
	数学科	4	66 (60)	—	264 (240)	学士 (理学)	平成29年4月 第1年次	同上
	物理学科	4	77 (70)	—	308 (280)	学士 (理学)	平成29年4月 第1年次	同上
	化学科	4	77 (70)	—	308 (280)	学士 (理学)	平成29年4月 第1年次	同上
	生命理学科	4	72 (65)	—	288 (260)	学士 (理学)	平成29年4月 第1年次	同上
	社会学部							
	社会学科	4	170 (155)	—	680 (620)	学士 (社会学)	平成29年4月 第1年次	同上
	現代文化学科	4	170 (155)	—	680 (620)	学士 (社会学)	平成29年4月 第1年次	同上
メディア社会学科	4	170 (155)	—	680 (620)	学士 (社会学)	平成29年4月 第1年次	同上	
法学部								
法学科	4	360 (325)	—	1440 (1300)	学士 (法学)	平成29年4月 第1年次	同上	
政治学科	4	110 (100)	—	440 (400)	学士 (政治学)	平成29年4月 第1年次	同上	
国際ビジネス法学科	4	115 (105)	—	460 (420)	学士 (法学)	平成29年4月 第1年次	同上	

観光学部	観光学科	4	195 (175)	—	780 (700)	学士 (観光学)	平成29年4月 第1年次	埼玉県新座市北野 一丁目2番26号	
	交流文化学科	4	175 (160)	—	700 (640)	学士 (観光学)	平成29年4月 第1年次	同上	
コミュニティ福祉学部	福祉学科	4	154 (140)	—	616 (560)	学士 (コミュニティ福祉学)	平成29年4月 第1年次	同上	
	コミュニティ政策学科	4	154 (140)	—	616 (560)	学士 (コミュニティ福祉学)	平成29年4月 第1年次	同上	
	スポーツウェルネス学科	4	110 (100)	—	440 (400)	学士 (スポーツウェルネス学)	平成29年4月 第1年次	同上	
経営学部	経営学科	4	230 (210)	—	920 (840)	学士 (経営学)	平成29年4月 第1年次	東京都豊島区西池袋 三丁目34番1号	
	国際経営学科	4	155 (140)	—	620 (560)	学士 (経営学)	平成29年4月 第1年次	同上	
現代心理学部	心理学科	4	143 (130)	—	572 (520)	学士 (心理学)	平成29年4月 第1年次	埼玉県新座市北野 一丁目2番26号	
	映像身体学科	4	176 (160)	—	704 (640)	学士 (映像身体学)	平成29年4月 第1年次	同上	
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	4	145 (130)	—	580 (520)	学士 (異文化コミュニケーション学)	平成29年4月 第1年次	東京都豊島区西池袋 三丁目34番1号	
	計		4604 (4150)	—	18416 (16600)				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		該当なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計	— 単位			
	—	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新	文学部	教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
			人	人	人	人	人	人	人
		文学部	6	3	0	0	9	0	33
		キリスト教学科	(6)	(3)	(0)	(0)	(9)	(0)	(33)
		史学科	15	2	0	0	17	0	64
		史学科	(15)	(2)	(0)	(0)	(17)	(0)	(64)
		教育学科	8	3	0	0	11	0	47
		教育学科	(8)	(3)	(0)	(0)	(11)	(0)	(47)
		文学科	30	5	0	8	43	0	143
		文学科	(30)	(5)	(0)	(8)	(43)	(0)	(143)
		経済学部	9	7	0	3	19	0	33
		経済学部	(9)	(7)	(0)	(3)	(19)	(0)	(33)
		会計ファイナンス学科	9	3	0	3	15	0	32
		会計ファイナンス学科	(9)	(3)	(0)	(3)	(15)	(0)	(32)
	経済政策学科	9	3	0	2	14	0	32	
	経済政策学科	(9)	(3)	(0)	(2)	(14)	(0)	(32)	
	理学部	8	4	0	2	14	0	19	
	理学部	(8)	(4)	(0)	(2)	(14)	(0)	(19)	
	数学科	10	4	0	5	19	0	40	
	数学科	(10)	(4)	(0)	(5)	(19)	(0)	(40)	
	化学科	11	3	0	2	16	0	22	
	化学科	(11)	(3)	(0)	(2)	(16)	(0)	(22)	
	生命理学科	8	5	0	2	15	0	28	
	生命理学科	(8)	(5)	(0)	(2)	(15)	(0)	(28)	

組 設 の 分	社会学部	11	2	0	2	15	0	57
	社会学科	(11)	(2)	(0)	(2)	(15)	(0)	(57)
	現代文化学科	6	3	0	3	12	0	57
		(6)	(3)	(0)	(3)	(12)	(0)	(57)
	デザイン社会学科	8	3	0	2	13	0	57
		(8)	(3)	(0)	(2)	(13)	(0)	(57)
	法学部	12	3	0	2	17	0	28
	法学科	(12)	(3)	(0)	(2)	(17)	(0)	(28)
	政治学科	8	3	0	3	14	0	28
		(8)	(3)	(0)	(3)	(14)	(0)	(28)
	国際ビジネス法学科	9	3	0	1	13	0	27
		(9)	(3)	(0)	(1)	(13)	(0)	(27)
	観光学部	12	1	0	1	14	0	71
	観光学科	(12)	(1)	(0)	(1)	(14)	(0)	(71)
	交流文化学科	8	3	0	2	13	0	34
		(8)	(3)	(0)	(2)	(13)	(0)	(34)
	コミュニティ福祉学部	7	2	0	5	14	0	51
	福祉学科	(7)	(2)	(0)	(5)	(14)	(0)	(51)
	コミュニティ政策学科	10	0	0	5	15	0	37
		(10)	(0)	(0)	(5)	(15)	(0)	(37)
スポーツウェルネス学科	7	3	0	3	13	0	42	
	(7)	(3)	(0)	(3)	(13)	(0)	(42)	
経営学部	10	4	0	2	16	0	32	
経営学科	(10)	(4)	(0)	(2)	(16)	(0)	(32)	
国際経営学科	7	4	1	5	17	0	31	
	(7)	(4)	(1)	(5)	(17)	(0)	(31)	
現代心理学部	8	5	0	1	14	0	47	
心理学科	(8)	(5)	(0)	(1)	(14)	(0)	(47)	
映像身体学科	11	3	0	2	16	0	43	
	(11)	(3)	(0)	(2)	(16)	(0)	(43)	
異文化コミュニケーション学部	30	9	0	5	44	0	52	
異文化コミュニケーション学科	(30)	(9)	(0)	(5)	(44)	(0)	(52)	
計	287	93	1	71	452	0	—	
	(287)	(93)	(1)	(71)	(452)	(0)	(—)	
組 設 の 分	学校・社会教育講座	8	2	0	0	10	0	79
		(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)	(79)
	全学共通カリキュラム運営センター	0	0	0	0	0	0	714
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(714)
	ランゲージセンター	0	0	46	0	46	0	0
		(0)	(0)	(46)	(0)	(46)	(0)	(0)
	英語ディスカッション教育センター	0	0	46	0	46	0	0
		(0)	(0)	(46)	(0)	(46)	(0)	(0)
	社会情報教育研究センター	0	0	0	3	3	0	0
		(0)	(0)	(0)	(3)	(3)	(0)	(0)
グローバル教育センター	0	0	0	0	0	0	3	
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3)	
チャブレン室	0	2	0	0	2	0	0	
	(0)	(2)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)	
計	8	4	92	3	107	0	—	
	(8)	(4)	(92)	(3)	(107)	(0)	(—)	
要	合 計	295	97	93	74	559	0	—
	(295)	(97)	(93)	(74)	(559)	(0)	(—)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	264 (264)		226 (226)		490 (490)		
	技 術 職 員	23 (23)		0 (0)		23 (23)		
	図 書 館 専 門 職 員	24 (24)		6 (6)		30 (30)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	計	311 (311)		232 (232)		543 (543)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校舎敷地	115,439㎡	— ㎡	— ㎡	115,439㎡					
	運動場用地	121,888㎡	— ㎡	— ㎡	121,888㎡					
	小 計	237,327㎡	— ㎡	— ㎡	237,327㎡					
	そ の 他	15,842㎡	— ㎡	— ㎡	15,842㎡					
合 計	253,169㎡	— ㎡	— ㎡	253,169㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		178,345㎡ (178,345㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	178,345㎡ (178,345㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	136室	157室	48室	21室 (補助職員一人)	— 室 (補助職員一人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		大学全体		516 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資 料 点	機械・器具 点	標本 点			
	大学全体	1,951,542 [763,867] (1,874,706 [739,288])	20,712 [6,839] (20,712 [6,839])	26,618 [26,083] (26,618 [26,083])	65,004 (61,965)	877 (877)	0 (0)			
	計	1,951,542 [763,867] (1,874,706 [739,288])	20,712 [6,839] (20,712 [6,839])	26,618 [26,083] (26,618 [26,083])	65,004 (61,965)	877 (877)	0 (0)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		19,729㎡	2,079	2,933,105						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		12,412㎡	ジム、馬場、射撃場、テニスコート、プール、弓道場等							
経費の見積り 及び維持方法 の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費にはオンライン資料、データベース（オンライン検索）使用料、AV関連資料を含む。
		教員1人当り研究費等		1,061千円	1,061千円	1,061千円	1,061千円	—	—	
		共同研究費等		183,418千円	183,418千円	183,418千円	183,418千円	—	—	
		図書購入費	665,245千円	665,245千円	665,245千円	665,245千円	665,245千円	—	—	
	設備購入費	290,471千円	290,471千円	290,471千円	290,471千円	290,471千円	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		文学部（教育学科初等教育専攻を除く）	1,278千円	1,078千円	1,028千円	1,028千円	— 千円	— 千円		
		文学部 教育学科初等教育 専攻	1,278千円	1,078千円	1,038千円	1,028千円	— 千円	— 千円		
		経済・法・ 観光学部	1,271千円	1,071千円	1,021千円	1,021千円	— 千円	— 千円		
		社会学部	1,286千円	1,086千円	1,036千円	1,036千円	— 千円	— 千円		
		理学部 数学科	1,698千円	1,498千円	1,448千円	1,448千円	— 千円	— 千円		
		理学部 物理学科	1,738千円	1,538千円	1,528千円	1,528千円	— 千円	— 千円		
		理学部 化学科	1,738千円	1,538千円	1,508千円	1,528千円	— 千円	— 千円		
	理学部 生命理学科	1,778千円	1,538千円	1,528千円	1,528千円	— 千円	— 千円			
コミュニティ福祉学部 福祉学科 コミュニティ政策学科	1,281千円	1,081千円	1,028千円	1,028千円	— 千円	— 千円				

コミュニケーション福祉学部 スポーツウェルネス学科	1,287千円	1,087千円	1,038千円	1,028千円	— 千円	— 千円		
経営学部	1,301千円	1,086千円	1,036千円	1,036千円	— 千円	— 千円		
現代心理学部 心理学科	1,330千円	1,130千円	1,080千円	1,080千円	— 千円	— 千円		
現代心理学部 映像身体学科	1,355千円	1,155千円	1,105千円	1,105千円	— 千円	— 千円		
異文化コミュニケーション学部	1,288千円	1,081千円	1,031千円	1,029千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入、寄付金収入、補助金収入等						
大学の名称		立教大学						
学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地
文学部	年	人	年次 人	人		倍		
キリスト教学科	4	43	—	172	学士(文学)	1.10	昭和24 年度	東京都豊島区西池 袋三丁目34番1号
史学科	4	194	—	776	学士(文学)	1.09	昭和24 年度	同上
教育学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.08	昭和37 年度	同上
文学科	4	463	—	1852	学士(文学)	1.10	平成18 年度	同上
経済学部						1.11		
経済学科	4	295	—	1180	学士(経済学)	1.09	昭和24 年度	同上
会計ファイナンス学科	4	155	—	620	学士(経済学)	1.12	平成14 年度	同上
経済政策学科	4	155	—	620	学士(経済学)	1.14	平成18 年度	同上
理学部						1.05		
数学科	4	60	—	240	学士(理学)	1.03	昭和24 年度	同上
物理学科	4	70	—	280	学士(理学)	1.05	昭和24 年度	同上
化学科	4	70	—	280	学士(理学)	1.06	昭和24 年度	同上
生命理学科	4	65	—	260	学士(理学)	1.05	平成14 年度	同上
社会学部						1.14		
社会学科	4	155	—	620	学士(社会学)	1.16	昭和33 年度	同上
現代文化学科	4	155	—	620	学士(社会学)	1.12	平成14 年度	同上
メディア社会学科	4	155	—	620	学士(社会学)	1.14	平成18 年度	同上
法学部						1.13		
法学科	4	325	—	1300	学士(法学)	1.13	昭和34 年度	同上
政治学科	4	100	—	400	学士(政治学)	1.11	平成8年 度	同上
国際ビジネス法学科	4	105	—	420	学士(法学)	1.14	昭和63 年度	同上
								法学部国際ビジネス法学科は平成19年度に国際・比較法学科から名称変更。

既設大学等の状況	観光学部					1.10				
	観光学科	4	175	—	700	学士(観光学)	1.12	平成10年度	埼玉県新座市北野一丁目2番26号	
	交流文化学科	4	160	—	640	学士(観光学)	1.08	平成18年度	同上	
	コミュニティ福祉学部						1.10			
	福祉学科	4	140	—	560	学士(コミュニティ福祉学)	1.09	平成18年度	同上	
	コミュニティ政策学科	4	140	—	560	学士(コミュニティ福祉学)	1.11	平成18年度	同上	
	スポーツウェルネス学科	4	100	—	400	学士(スポーツウェルネス学)	1.09	平成20年度	同上	
	経営学部						1.09			
	経営学科	4	210	—	840	学士(経営学)	1.09	平成18年度	東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	
	国際経営学科	4	140	—	560	学士(経営学)	1.09	平成18年度	同上	
	現代心理学部						1.10			
	心理学科	4	130	—	520	学士(心理学)	1.10	平成18年度	埼玉県新座市北野一丁目2番26号	
	映像身体学科	4	160	—	640	学士(映像身体学)	1.09	平成18年度	同上	
	異文化コミュニケーション学部						1.09			
	異文化コミュニケーション学科	4	130	—	475	学士(異文化コミュニケーション学)	1.09	平成20年度	東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	平成28年度入学定員増(15人)。
	文学研究科									
	組織神学専攻(M)	2	—	—	—	修士(神学)	—	昭和29年度	同上	平成21年度より募集停止。
	組織神学専攻(D)	3	—	—	—	博士(神学)	—	昭和33年度	同上	
	英米文学専攻(M)	2	18	—	36	修士(文学)	0.24	昭和26年度	同上	
	英米文学専攻(D)	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	昭和28年度	同上	
史学専攻(M)	2	15	—	30	修士(文学)	0.69	昭和33年度	同上		
史学専攻(D)	3	6	—	18	博士(文学)	0.10	昭和51年度	同上		
教育学専攻(M)	2	10	—	20	修士(教育学)	0.45	昭和44年度	同上		
教育学専攻(D)	3	3	—	9	博士(教育学)	0.66	昭和47年度	同上		
日本文学専攻(M)	2	20	—	40	修士(文学)	0.52	昭和35年度	同上		
日本文学専攻(D)	3	8	—	24	博士(文学)	0.70	昭和37年度	同上		
フランス文学専攻(M)	2	8	—	16	修士(文学)	0.25	昭和40年度	同上		
フランス文学専攻(D)	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	昭和42年度	同上		
ドイツ文学専攻(M)	2	8	—	16	修士(文学)	0.12	昭和42年度	同上		
ドイツ文学専攻(D)	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	昭和44年度	同上		
比較文明学専攻(M)	2	20	—	40	修士(比較文明学)	0.20	平成10年度	同上		
比較文明学専攻(D)	3	5	—	15	博士(比較文明学)	0.20	平成12年度	同上		
超域文化学専攻(M)	2	5	—	10	修士(文学)	0.50	昭和42年度	同上	平成22年度より地理学専攻から名称変更。	
超域文化学専攻(D)	3	3	—	9	博士(文学)	0.00	昭和44年度	同上		

経済学研究科									
経済学専攻(M)	2	40	—	80	修士(経済学) 修士(会計学)	0.56	昭和26 年度	同上	
経済学専攻(D)	3	10	—	30	博士(経済学) 博士(会計学)	0.16	昭和38 年度	同上	
理学研究科									
物理学専攻(M)	2	20	—	40	修士(理学)	1.00	昭和28 年度	同上	
物理学専攻(D)	3	4	—	12	博士(理学)	0.91	昭和30 年度	同上	
化学専攻(M)	2	20	—	40	修士(理学)	1.02	昭和29 年度	同上	
化学専攻(D)	3	4	—	12	博士(理学)	0.41	昭和37 年度	同上	
数学専攻(M)	2	5	—	10	修士(理学)	1.50	昭和30 年度	同上	
数学専攻(D)	3	3	—	9	博士(理学)	0.11	昭和37 年度	同上	
生命理学専攻(M)	2	15	—	30	修士(理学)	0.76	平成8 年度	同上	
生命理学専攻(D)	3	4	—	12	博士(理学)	0.08	平成10 年度	同上	
社会学研究科									
社会学専攻(M)	2	20	—	40	修士(社会学)	0.72	平成2 年度	同上	
社会学専攻(D)	3	10	—	30	博士(社会学)	0.26	平成9 年度	同上	
法学研究科									
法学政治学専攻(M)	2	20	—	40	修士(法学) 修士(政治学)	0.12	平成18 年度	同上	
法学政治学専攻(D)	3	10	—	30	博士(法学) 博士(政治学)	0.16	平成18 年度	同上	
観光学研究科									
観光学専攻(M)	2	30	—	60	修士(観光学)	0.16	平成10 年度	埼玉県新座市北野 一丁目2番26号	
観光学専攻(D)	3	8	—	24	博士(観光学)	0.25	平成10 年度	同上	
コミュニティ福祉学研究科									
コミュニティ福祉学専攻(M)	2	25	—	50	修士(コミュニティ 福祉学)	0.30	平成18 年度	同上	
コミュニティ福祉学専攻(D)	3	5	—	15	修士(スポーツウエ ルネス学) 博士(コミュニティ 福祉学)	0.93	平成16 年度	同上	
ビジネスデザイン研究科									
ビジネスデザイン専攻(M)	2	90	—	180	修士(経営管 理学)	0.97	平成14 年度	東京都豊島区西池 袋三丁目34番1号	
ビジネスデザイン専攻(D)	3	5	—	15	博士(経営管 理学)	1.00	平成19 年度	同上	
21世紀社会デザイン研究科									
比較組織ネットワーク学専攻 (M)	2	50	—	100	修士(社会デ ザイン学)	0.99	平成14 年度	同上	
比較組織ネットワーク学専攻 (D)	3	5	—	15	博士(社会デ ザイン学)	0.53	平成19 年度	同上	

異文化コミュニケーション研究科									
異文化コミュニケーション専攻(M)	2	20	—	40	修士(異文化コミュニケーション学)	0.80	平成14年度	同上	
異文化コミュニケーション専攻(D)	3	5	—	15	博士(異文化コミュニケーション学)	0.60	平成16年度	同上	
言語科学専攻(M)	2	—	—	—	修士(異文化コミュニケーション学)	—	平成24年度	同上	平成28年度より募集停止。
経営学研究科									
経営学専攻(M)	2	10	—	20	修士(経営学)	0.70	平成18年度	東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	
経営学専攻(D)	3	5	—	15	博士(経営学)	0.20	平成18年度	同上	
国際経営学専攻(M)	2	10	—	20	修士(国際経営学) 修士(公共経営学)	1.15	平成23年度	同上	
現代心理学研究科									
心理学専攻(M)	2	10	—	20	修士(心理学)	0.40	平成18年度	埼玉県新座市北野一丁目2番26号	
心理学専攻(D)	3	3	—	9	博士(心理学)	0.33	平成18年度	同上	
臨床心理学専攻(M)	2	15	—	30	修士(臨床心理学)	0.89	平成18年度	同上	
臨床心理学専攻(D)	3	4	—	12	博士(臨床心理学)	0.00	平成18年度	同上	
映像身体学(M)	2	15	—	30	修士(映像身体学)	0.39	平成20年度	同上	
映像身体学(D)	3	4	—	12	博士(映像身体学)	0.33	平成22年度	同上	
キリスト教学研究科									
キリスト教学専攻(M)	2	10	—	20	修士(神学) 修士(文学) 修士(実践神学)	0.85	平成21年度	東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	
キリスト教学専攻(D)	3	5	—	15	博士(神学) 博士(文学)	0.53	平成21年度	同上	
法務研究科									
法務専攻(P)	3	40	—	120	法務博士(専門職)	0.44	平成16年度	同上	
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人立教学院 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度

平成29年度

立教大学

立教大学

学 部	学 科	入学 定員	編入学 定員 (3年次)	収容 定員	学 部	学 科	入学 定員	編入学 定員 (3年次)	収容 定員	変更の事由
文学部	キリスト教学 科	43	—	172	文学部	キリスト教学 科	49	—	196	定員変更 (6)
	史学科	194	—	776		史学科	214	—	856	定員変更 (20)
	教育学科	100	—	400		教育学科	100	—	400	
	文学科	463	—	1,852		文学科	537	—	2,148	定員変更 (74)
経済学部	経済学科	295	—	1,180	経済学部	経済学科	330	—	1,320	定員変更 (35)
	会計ファイナ ンス学科	155	—	620		会計ファイナ ンス学科	175	—	700	定員変更 (20)
	経済政策学科	155	—	620		経済政策学科	175	—	700	定員変更 (20)
理学部	数学科	60	—	240	理学部	数学科	66	—	264	定員変更 (6)
	物理学科	70	—	280		物理学科	77	—	308	定員変更 (7)
	化学科	70	—	280		化学科	77	—	308	定員変更 (7)
	生命理学科	65	—	260		生命理学科	72	—	288	定員変更 (7)
社会学部	社会学科	155	—	620	社会学部	社会学科	170	—	680	定員変更 (15)
	現代文化学科	155	—	620		現代文化学科	170	—	680	定員変更 (15)
	メディア社会 学科	155	—	620		メディア社会 学科	170	—	680	定員変更 (15)
法学部	法学科	325	—	1,300	法学部	法学科	360	—	1,440	定員変更 (35)
	政治学科	100	—	400		政治学科	110	—	440	定員変更 (10)
	国際ビジネス 法学科	105	—	420		国際ビジネス 法学科	115	—	460	定員変更 (10)
観光学部	観光学科	175	—	700	観光学部	観光学科	195	—	780	定員変更 (20)
	交流文化学科	160	—	640		交流文化学科	175	—	700	定員変更 (15)
コミュニ ティ福祉 学部	福祉学科	140	—	560	コミュニ ティ福祉 学部	福祉学科	154	—	616	定員変更 (14)
	コミュニテイ 政策学科	140	—	560		コミュニテイ 政策学科	154	—	616	定員変更 (14)
	スポーツウエ ルネス学科	100	—	400		スポーツウエ ルネス学科	110	—	440	定員変更 (10)
経営学部	経営学科	210	—	840	経営学部	経営学科	230	—	920	定員変更 (20)
	国際経営学科	140	—	560		国際経営学科	155	—	620	定員変更 (15)
現代心理 学部	心理学科	130	—	520	現代心理 学部	心理学科	143	—	572	定員変更 (13)
	映像身体学科	160	—	640		映像身体学科	176	—	704	定員変更 (16)
異文化コ ミュニ ケーション 学部	異文化コミュ ニケーション 学科	130	—	520	異文化コ ミュニ ケーション 学部	異文化コミュ ニケーション 学科	145	—	580	定員変更 (15)
計		4,150	—	16,600	計		4,604	—	18,416	

平成28年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
文学研究科	組織神学専攻 (M)	募集停止		
	組織神学専攻 (D)	募集停止		
	英米文学専攻 (M)	18	—	36
	英米文学専攻 (D)	3	—	9
	史学専攻 (M)	15	—	30
	史学専攻 (D)	6	—	18
	教育学専攻 (M)	10	—	20
	教育学専攻 (D)	3	—	9
	日本文学専攻 (M)	20	—	40
	日本文学専攻 (D)	8	—	24
	フランス文学専攻 (M)	8	—	16
	フランス文学専攻 (D)	3	—	9
	ドイツ文学専攻 (M)	8	—	16
	ドイツ文学専攻 (D)	3	—	9
	比較文明学専攻 (M)	20	—	40
	比較文明学専攻 (D)	5	—	15
超域文化学専攻 (M)	5	—	10	
超域文化学専攻 (D)	3	—	9	
経済学研究科	経済学専攻 (M)	40	—	80
	経済学専攻 (D)	10	—	30
理学研究科	物理学専攻 (M)	20	—	40
	物理学専攻 (D)	4	—	12
	化学専攻 (M)	20	—	40
	化学専攻 (D)	4	—	12
	数学専攻 (M)	5	—	10
	数学専攻 (D)	3	—	9
	生命理学専攻 (M)	15	—	30
	生命理学専攻 (D)	4	—	12
社会学研究科	社会学専攻 (M)	20	—	40
	社会学専攻 (D)	10	—	30
法学研究科	法学政治学専攻 (M)	20	—	40
	法学政治学専攻 (D)	10	—	30
観光学研究科	観光学専攻 (M)	30	—	60
	観光学専攻 (D)	8	—	24
コミュニティ福祉学研究科	コミュニティ福祉学専攻 (M)	25	—	50
	コミュニティ福祉学専攻 (D)	5	—	15
ビジネスデザイン研究科	ビジネスデザイン専攻 (M)	90	—	180
	ビジネスデザイン専攻 (D)	5	—	15

平成29年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文学研究科	組織神学専攻 (M)	募集停止			
	組織神学専攻 (D)	募集停止			
	英米文学専攻 (M)	18	—	36	
	英米文学専攻 (D)	3	—	9	
	史学専攻 (M)	15	—	30	
	史学専攻 (D)	6	—	18	
	教育学専攻 (M)	10	—	20	
	教育学専攻 (D)	3	—	9	
	日本文学専攻 (M)	20	—	40	
	日本文学専攻 (D)	8	—	24	
	フランス文学専攻 (M)	8	—	16	
	フランス文学専攻 (D)	3	—	9	
	ドイツ文学専攻 (M)	8	—	16	
	ドイツ文学専攻 (D)	3	—	9	
	比較文明学専攻 (M)	20	—	40	
	比較文明学専攻 (D)	5	—	15	
超域文化学専攻 (M)	5	—	10		
超域文化学専攻 (D)	3	—	9		
経済学研究科	経済学専攻 (M)	40	—	80	
	経済学専攻 (D)	10	—	30	
理学研究科	物理学専攻 (M)	20	—	40	
	物理学専攻 (D)	4	—	12	
	化学専攻 (M)	20	—	40	
	化学専攻 (D)	4	—	12	
	数学専攻 (M)	5	—	10	
	数学専攻 (D)	3	—	9	
	生命理学専攻 (M)	15	—	30	
	生命理学専攻 (D)	4	—	12	
社会学研究科	社会学専攻 (M)	20	—	40	
	社会学専攻 (D)	10	—	30	
法学研究科	法学政治学専攻 (M)	20	—	40	
	法学政治学専攻 (D)	10	—	30	
観光学研究科	観光学専攻 (M)	30	—	60	
	観光学専攻 (D)	8	—	24	
コミュニティ福祉学研究科	コミュニティ福祉学専攻 (M)	25	—	50	
	コミュニティ福祉学専攻 (D)	5	—	15	
ビジネスデザイン研究科	ビジネスデザイン専攻 (M)	90	—	180	
	ビジネスデザイン専攻 (D)	5	—	15	

平成28年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
21世紀社会デザイン研究科	比較組織ネットワーク学専攻(M)	50	—	100
	比較組織ネットワーク学専攻(D)	5	—	15
異文化コミュニケーション研究科	異文化コミュニケーション専攻(M)	20	—	40
	異文化コミュニケーション専攻(D)	5	—	15
	言語科学専攻(M)	募集停止		
経営学研究科	経営学専攻(M)	10	—	20
	経営学専攻(D)	5	—	15
	国際経営学専攻(M)	10	—	20
現代心理学研究科	心理学専攻(M)	10	—	20
	心理学専攻(D)	3	—	9
	臨床心理学専攻(M)	15	—	30
	臨床心理学専攻(D)	4	—	12
	映像身体学専攻(M)	15	—	30
	映像身体学専攻(D)	4	—	12
キリスト教学研究科	キリスト教学専攻(M)	10	—	20
	キリスト教学専攻(D)	5	—	15
法務研究科	法務専攻(P)	40	—	120
計		697	—	1,562

平成29年度
立教大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
21世紀社会デザイン研究科	比較組織ネットワーク学専攻(M)	50	—	100	
	比較組織ネットワーク学専攻(D)	5	—	15	
異文化コミュニケーション研究科	異文化コミュニケーション専攻(M)	20	—	40	
	異文化コミュニケーション専攻(D)	5	—	15	
	言語科学専攻(M)	募集停止			
経営学研究科	経営学専攻(M)	10	—	20	
	経営学専攻(D)	5	—	15	
	国際経営学専攻(M)	10	—	20	
現代心理学研究科	心理学専攻(M)	10	—	20	
	心理学専攻(D)	3	—	9	
	臨床心理学専攻(M)	15	—	30	
	臨床心理学専攻(D)	4	—	12	
	映像身体学専攻(M)	15	—	30	
	映像身体学専攻(D)	4	—	12	
キリスト教学研究科	キリスト教学専攻(M)	10	—	20	
	キリスト教学専攻(D)	5	—	15	
法務研究科	法務専攻(P)	40	—	120	
計		697	—	1,562	

学則の変更の趣旨等を記載した書類

(目次)

ア	学則変更（収容定員変更）の内容	・・・	1
イ	学則変更（収容定員変更）の必要性	・・・	1
ウ	学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	・・・	4
	(ア) 教育課程の変更内容について	・・・	4
	(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容について	・・・	7
	(ウ) 教員組織の変更内容について	・・・	7
	(エ) 施設・設備の変更内容について	・・・	9

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

2017年度からの入学定員及び収容定員を下表のとおりとする。

学部名	学科名	変更前		変更後		増減	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
文学部		800	3,200	900	3,600	100	400
	キリスト教学科	43	172	49	196	6	24
	史学科	194	776	214	856	20	80
	教育学科	100	400	100	400	0	0
	文学科	463	1,852	537	2,148	74	296
経済学部		605	2,420	680	2,720	75	300
	経済学科	295	1,180	330	1,320	35	140
	会計ファイナンス学科	155	620	175	700	20	80
	経済政策学科	155	620	175	700	20	80
理学部		265	1,060	292	1,168	27	108
	数学科	60	240	66	264	6	24
	物理学科	70	280	77	308	7	28
	化学科	70	280	77	308	7	28
	生命理学科	65	260	72	288	7	28
社会学部		465	1,860	510	2,040	45	180
	社会学科	155	620	170	680	15	60
	現代文化学科	155	620	170	680	15	60
	メディア社会学科	155	620	170	680	15	60
法学部		530	2,120	585	2,340	55	220
	法学科	325	1,300	360	1,440	35	140
	政治学科	100	400	110	440	10	40
	国際ビジネス法学科	105	420	115	460	10	40
観光学部		335	1,340	370	1,480	35	140
	観光学科	175	700	195	780	20	80
	交流文化学科	160	640	175	700	15	60
コミュニティ福祉学部		380	1,520	418	1,672	38	152
	福祉学科	140	560	154	616	14	56
	コミュニティ政策学科	140	560	154	616	14	56
	スポーツウエルネス学科	100	400	110	440	10	40
経営学部		350	1,400	385	1,540	35	140
	経営学科	210	840	230	920	20	80
	国際経営学科	140	560	155	620	15	60
現代心理学部		290	1,160	319	1,276	29	116
	心理学科	130	520	143	572	13	52
	映像身体学科	160	640	176	704	16	64
異文化コミュニケーション学部		130	520	145	580	15	60
	異文化コミュニケーション学科	130	520	145	580	15	60
合計		4,150	16,600	4,604	18,416	454	1,816

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

○全国の大学を取り巻く背景

大学の国際化に関しては、大学審議会による答申（「21世紀の大学像と今後の改革方策について」及び「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」）を皮切りに、中央教育審議会による答申等（「我が国の高等教育の将来像」、「中長期的な大学教育の在り方に関する報告」等）で言及されているほか、政府等からの提言（グローバル人材育成推進会議：「グローバル人材育成戦略」

／教育再生実行会議：「これからの大学教育の在り方について（第三次提言）」等）も数多く出されている。

これに加え、「日本再興戦略」、「第二期教育振興基本計画」等の閣議決定においても、大学等の国際化、グローバル化等に対応する人材力の強化、外国人留学生と日本学生との交流等が言及されており、将来の予測が困難な時代が到来しつつある中、社会の各方面、各分野において、国際化を含む大学改革への期待が高まっている（新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（中央教育審議会答申））。

とりわけ、人材育成を通じた知的国際貢献、「日本」の魅力の海外への普及等に資する外国人留学生の受入れについては、1983（昭和58）年の「留学生10万人計画」に続き、2008（平成20）年には「留学生30万人計画」が策定され、「日本をより開かれた国とし、アジア、世界との間のヒト、モノ、カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する一環として、2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指す。」とされたところである。さらに、2014（平成26）年6月に閣議決定された「日本再興戦略～JAPAN is BACK～」においては、「2020年までに日本人留学生を6万人（2010年）から12万人へ倍増させる。優秀な外国人留学生についても、2012年の14万人から2020年までに30万人に倍増させること（「留学生30万人計画」の実現）を目指す。」とされた。

このため、国の成長を牽引する知的拠点として、大学が果たすべき責任は大きい。各大学が、国際通用性を高め、かつ、国際競争力を向上させるため、海外大学等との双方向の交流を行いながら、優秀な外国人留学生の一層の受入れを行うこと及びグローバル人材を育成することが求められている。

○本学に特有の背景

本学の起源は1874（明治7年）に開校した立教学校まで遡る。そこでは、英学及び聖書を通じた日本とは異なる文化やものの見方を教えると同時に、漢学を通じたものの見方を授けることによって、世界を相対的及び多面的に見る国際的な教育を実践していた。国際性を重視する教育は現在でも受け継がれており、全学生必修の1クラス8名での言語教育、多くの海外留学プログラム等が展開されているほか、本学の国際化を牽引する経営学部では、英語で経営学を学修できる力をつけることを狙いとした海外短期留学を含むプログラムを展開するなど、英語コミュニケーション能力を伸ばし、グローバルなビジネス環境でリーダーシップを発揮できる人材を育成している。

大学の国際化に伴う環境整備として、1987（昭和62）年に国際センターを設置し、日本語論文指導チューター制度、国際交流行事の企画等の外国人留学生への支援を行っているほか、2011（平成23）年に日本語教育センターを設置して日本語教育及び日本語を母語としない学生や研究者に対する日本語支援を、2013（平成25）年にグローバル教育センターを設置して本学の学生に対するグローバルリーダーシップ教育の提供、海外インターンシップの開発等を行っている。

さらに、2014（平成26）年5月に広く社会に公表した本学の国際化戦略「Rikkyo Global 24」（以下「RG24」という。）を踏まえ、スーパーグローバル大学創成支援（以下「TGU」という。）に申請し、タイプB（グローバル化牽引型）に採択された。RG24及びTGUでは、10年後に「全学生の海外体験」、「外国人留学生2,000人（昨年度約500名を10年間で2,000名へ）」等の目標を掲げ、目標の達成に向け、新たな取組みを行っているところである。

特に、外国人留学生の受入れについては、従前から行っている正規学生（日本人と同じ課程で学ぶ者）への35%の授業料減免、学生による相互交流（国際交流ボランティア）の促進、寮費補助等に加え、TGUでの支援を得ながら、外国人留学生と日本人学生との交流の場（グローバルラウンジ）の設

置、学内文書の英語化の推進、Webによる渡日前出願の実施等を行っている。さらに、海外事務所（ロンドン、ニューヨーク及びソウル）を通じた外国人留学生へ向けた広報、海外協定校の開拓及びRG24（英語版）の配布、RG24の動画作成及び配信、海外留学フェアへの積極的な参加等の海外広報活動を強化した。その結果、外国人留学生からの出願が増加傾向にあり（下表参照）、特に、2015（平成27）年度外国人留学生入試のうち、書類選考による募集制度においては対前年度比123名増の439名（筆記及び面接による募集）と合わせると461名、2016（平成28）年度同入試では対前年度比213名増の652名（同692名。全27学科中26学科で増加。）からの出願があった。今後予定されている英語コースの設置、海外協定校の増加等により、より多くの外国人留学生が本学で学ぶことが予想される。

また、このように国際化を推進し、それに伴う教学改革にも積極的に取り組む本学には、毎年多くの志願者がおり、2015年度入試においても本学の志願倍率は全国的水準より高いものとなった（下表参照）。これらの社会的ニーズに対応し、優秀なグローバル人材を今後もより多く輩出していくことも本学の社会的使命と考えている。

【外国人留学生入試の志願者数の推移】

2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
465	316	294	335	461	692

※全学：書類選考による募集＋筆記及び面接による募集

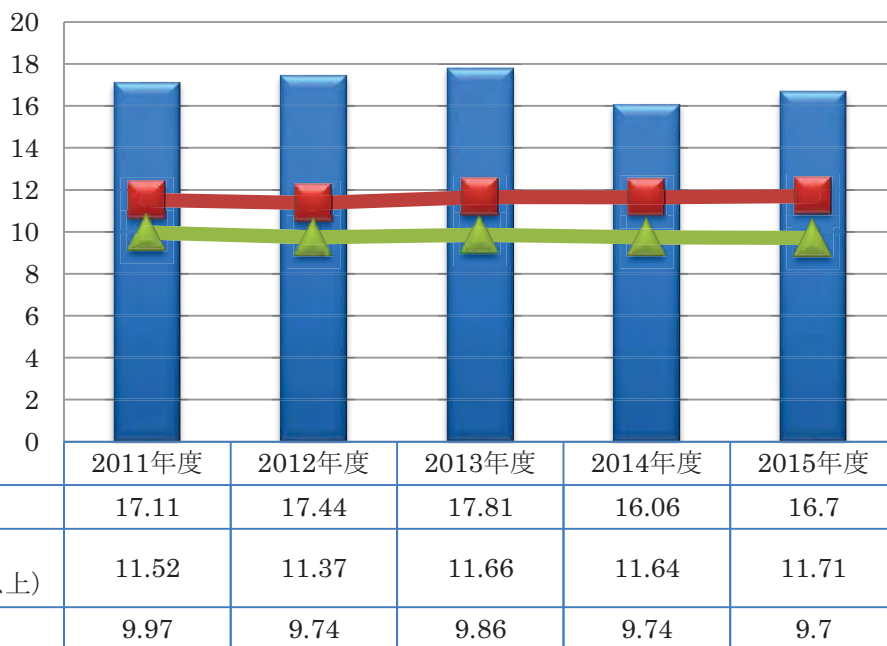
【志願倍率の推移】

2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
23.35	23.91	24.35	21.9	22.64

※全学：一般入試（大学入試センター試験利用入試を含む。）に限る。

志願倍率の推移（全入試区分）

全国平均は、「平成27（2015）年度私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）から引用



○収容定員を増加する理由

今回、収容定員を増加する理由は以下のとおりである。

①外国人留学生受入れ強化に伴う厳格な定員管理

上述したとおり、RG24 及び TGU での目標達成に向けた取組みの結果、前ページの表のとおり外国人留学生の志願者数が増加傾向にあるため、今後は外国人留学生の受入れを一層強化する。また、本学は、TGU の「グローバル化牽引型」に採択され、公的資金による補助を受けている。そのため、外国人留学生の受入れ数の増加その他の他大学を牽引する取組みを行わなければならないことに加え、「留学生 30 万人計画」の達成に寄与する責任がある。これらを鑑み、現在、外国人留学生入試における「書類選考による募集」の募集定員を「若干名」としているところを、2017（平成 29）年度から実数化し、志願者に対して入学者数を明示するとともに、外国人留学生の受入れ数の増加に備え、収容定員を増加する。

②志願倍率の増加への対応

前ページの表のとおり、近年の 18 歳人口減少傾向の中にあっても、多くの受験生が本学を志願している。本学では今後も国際化をはじめとした教育研究環境の整備や入試改革等の教学改革を進めていく。本学へのニーズに対応し、TGU 採択校として、さらに多くの優秀なグローバル人材を輩出していくことが社会的使命と考え、収容定員を増加する。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容について

学部学科の新設ではないため、本申請に伴って教育課程が変更することはない。しかしながら、RG24 で掲げた目標達成への基盤となる、新しい教育カリキュラム（「RIKKYO Learning Style」）（資料 1）を 2016（平成 28）年度から全学一斉に開始する。また、社会学部及び異文化コミュニケーション学部においては、同年度から新コース等を設置する（「国際社会コース」（資料 2）及び「Dual Language Pathway」（資料 3））。これらの取組みにより、外国人留学生の受入れを強化するとともに、より多くのグローバル人材を輩出する。

<RIKKYO Learning Style の概要>

◇ 4 年間の学生生活を 3 つに分割

4 年間を「導入期」・「形成期」・「完成期」の 3 期に分け、各期にそれぞれ到達目標を設定し、学生は、自分が目標に対してどのレベルまで到達しているかを常に確認しながら、各種の学びと振り返りを繰り返していく。

◇ 導入期＝立教ファーストタームプログラム（「学びの精神」及び「学びの技法」で構成）

入学後のより早い段階で、大学で学ぶことの動機づけをするため、3 期のうち、特に「導入期」（第 1 年次春学期）を重視している。この「導入期＝立教ファーストタームプログラム」では、全ての学部の新入生が、「学びの精神」及び「学びの技法」を履修する。

「学びの精神」では、大学での学びをはじめるとにあたり、大学で学ぶことの意味について理解していく科目群を展開し、「宗教」、「人間」及び「大学」という 3 つの基本テーマを多様な観点や主題を交えて講義する科目を設置する。講義を受け、要点を理解して自らの考えを練り、リアクションペーパーや小レポートでそれを表現するという、高校までの勉強と異なる大学の講義科目受講の包括的スキルを体得する。

「学びの技法」では、従前から実施している各学部の少人数教育を継承し、形成期以降で学ぶ上で必要となる知識、スチューデント・スキル（自己分析、学習目標づくり、タイムマネジメント等）、スタディ・スキル（文献検索方法、レポートの書き方、プレゼンテーションスキル等）、情報リテラシー等を身につける。

◇「形成期」・「完成期」（学部専門科目及び全学共通科目（多彩な学び））

1年次秋学期からの「形成期」及び3年次春学期からの「完成期」では、学部専門科目に加え、「多彩な学び」として、専門分野の枠を越えた幅広い知識と教養、総合的な判断力を養うことを目的とした全学共通科目群を設置する。これは、本学が重視するリベラルアーツ教育の軸となる講義科目群であり、主題別の科目編成に基づいた、多様かつ今日的なテーマを扱う6つのカテゴリから構成される。

◇グローバル教養副専攻（全ての学部生が2年次からコース登録可能）

国際社会に通用する応用力と発信力を身につけるため、専門性に加えテーマをもって横断的につながる知識と外国語を使う力を身につける「グローバル教養副専攻」を展開する。この「グローバル教養副専攻」は、「Arts & Science Course」（第1群）、「Discipline Course」（第2群）及び「Language & Culture Course」（第3群）に分類されるほか、海外体験、第1系列、第2系列及び第3系列の4つの系列で構成され、各コースにより各系列の必要単位数が定められている（合計で26単位以上の履修が必要）。

【グローバル教養副専攻の各コースの構成】

海外体験
大学の成果と正課として行われる海外実習科目や派遣留学だけでなく、正課外のプログラム、自ら企画した海外活動も事前審査により対象とすることができる。
第1系列（日本関係科目）
日本について学ぶ科目群であり、外国語で行われる科目である。「自己理解」「伝達内容」「異文化との相互敬意」を養うことができる。
第2系列（日本語又は外国語によるコンテンツ科目）
全学共通の「多彩な学び」科目、他学部科目を中心とした科目群である。専門性を有効化する「多彩な知力」を身につけ、専門性と連携する「多彩な思考力」を養い、海外情報を含めた「多様な経験」に触れることができる。
第3系列（外国語によるコンテンツ学習科目及び外国語科目）
全学共通の「多様な言語」（英語＋初習言語）、外国語で行われる講義科目など、外国語に関係する科目群である。読解や発信をはじめとした相互コミュニケーションとしての「言語能力」を高めることができる。また、英語以外の言語を学ぶことを通じて日本語の特性を理解し、多様な外国語と文化に対応できる柔軟な知性を育成する基礎を作る。

【グローバル教養副専攻の例：第1群「Global Citizenship」】

系列	主な科目	使用言語	単位
海外体験	正課科目、正課外プログラム、自主企画（ボランティア等）など	外国語	認定
第1系列	F科目、J科目などから※	日本語・外国語	2単位以上
第2系列	「多彩な学び」の「RSL-1」（自立と社会福祉）、「RSL-2」（持続可能な社会と市民の役割）など関連科目から	日本語	1.4単位以上
第3系列	「多彩な学び」の「RSL-3」（フィリピン・トリニティ大学との協働プログラム）、「多様な言語」自由科目、F科目、海外実習科目などから	外国語	4単位以上

※F科目→外国語による日本研究科目（日本の歴史、政治、社会、文化、文学等）

※J科目→日本関連科目（日本の文化、社会、自然等）

<社会学部「国際社会コース」の概要>

2016（平成28）年度から、グローバルな視点から日本と海外の社会・文化を理解し、地球市民として活躍できる人材を育成するため、国際社会コースを設置する。当該コースは、1学年各学科（社会学科、メディア社会学科及び現代文化学科）15名計45名で構成され、当該コース選択者は、学科の所属に関わらず学科横断的な「国際社会コース指定科目」（下表参照）を履修する（2年次に当該コースを選択）。

【国際社会コース指定科目の例】

Reading Sociology in English	社会学を英語で学ぶことの重要性を理解するために、社会学の教科書を英語で読むことを基本にしたゼミ形式の授業。
Introduction to Sociology	英語の運用能力を活用し、討論や口頭発表の要素を大幅に取り入れた授業。海外の教科書や資料を使い、多様な見方や考え方に会うことを目的としている。
Lecture & Discussion on Sociology	英語で現代の重要な社会的・文化的・時事的テーマを深く学び、これらのテーマに関して英語で自在に発表し、かつ積極的に討論する力を養うことを目的としている。
Writing Academic English	英語の論文の基本的な組み立て方と論理を理解し、英語で論文を作成することに習熟することを目標とした授業。

<異文化コミュニケーション学部「Dual Language Pathway」の概要>

2016（平成28）年度から、卒業に必要な専門科目を全て英語で学びながら、英語と日本語、2つの言語を駆使して4年間学んでいくプログラム（「Dual Language Pathway」）を設置する。当該プログラムでは、深く正しい日本語力と高度な英語運用能力の習得を目指すため、学部設置の英語で展開されている専門科目を中心に履修していくが、同時に日本語で展開されている科目の履修も必須となる。

【Dual Language Pathway受講学生の履修科目の例】

1年次	・Academic Skills A/B
	・Overview of Language and Communication Studies
	・Overview of Global Studies
2年次	・Introduction to Intercultural Communication
	・Introduction to Linguistics
	・Introduction to Translation and Interpreting Studies
3年次	・Advanced Seminar 1
	・Ethnicity and Globalization in Japan
	・Language Policy and Multilingualism
4年次	・Advanced Seminar 2
	・Advanced Seminar 3 & senior Research
	・Religions in Japan

【Dual Language Pathway受講学生が履修できる日本語科目の例】

言語研究関連科目群	通訳翻訳研究関連科目群	コミュニケーション研究関連科目群	グローバル・スタディーズ研究関連科目群
・言語学概論	・通訳翻訳学概論	・コミュニケーション研究概論	・国際協力・開発学概論
・英語学概論	・通訳入門	・異文化コミュニケーション概論	・文化人類学概論
・日本語学概論A/B	・逐次通訳	・メディアコミュニケーション論	・カルチュラル・スタディーズ概論

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容について

本申請に伴って教育方法及び履修指導方法が変更することはないが、RG24、TGU 及び「RIKKYO Learning Style」等の一連の改革の一環として、ナンバリング及びeポートフォリオを全学一斉に導入する。また、2015（平成27）年度から一部の学部等で試行的に導入していた4学期制を2016（平成28）年度には本格導入し、四半期科目を増加させる。これらの取組みにより、本学のカリキュラムに国際通用性を備えさせ、外国人留学生の受入れ及び日本人学生の海外派遣を促進させる。

<ナンバリング>

専門分野や難易度に応じて体系的にナンバーをつけ、「いつ、どのような科目を履修すべきか」をより分かり易くするため、「RIKKYO Learning Style」で示す3期に応じて、「導入期」の科目群は1,000番台、「形成期」の科目群は2,000番台及び「完成期」の科目群は3,000番台とする（対象科目は約5,000科目（学部約3,600科目、大学院約1,400科目））。なお、ナンバリングは、海外の大学で導入されているため、外国人留学生の本学での科目選択及び日本人学生の留学先での科目選択の目安になる。

<eポートフォリオ>

自らのビジョンに沿って学びが進んでいるかをオンラインで確認できるシステムである。入学から卒業まで、授業の中で提出したレポート、教員からのフィードバック、TOEICやTOEFL等のスコア、留学時の学修記録、参加したボランティア等の正課外プログラムの記録など、学生生活で学んだことが蓄積されていくため、いつでも目標を確認しながら自身の成長を振り返ることができ、将来のキャリアを考える時にも活用することができる。

<4学期制>

2016（平成28）年度から、国際化を推進するための環境整備の柱として、現在の春（S）と秋（F）の2学期を土台に四半期科目を導入し、S1、S2、F1及びF2の4学期制での授業を可能とする。4学期制の導入により、学生が海外へ留学しやすくなるのに加え、学期制の異なる海外からも留学生や教員をスムーズに受け入れることができる。

(ウ) 教員組織の変更内容について

学部学科の新設ではないため、本申請に伴って教員組織が変更することはない。しかしながら、RG24、TGU 及び「RIKKYO Learning Style」等の一連の改革を確実に実施していくため、「教育コーチ」及び「教育研究コーディネーター」の活用、TA/SAに係る制度改正等を行い、新たな取組みに付随して増加する業務への対応を行っている。これらの取組みにより、本申請による収容定員の増加後も、これまで以上に充実した教育を実施することが可能である。

<教育コーチ>

上述のとおり、「RIKKYO Learning Style」の「ファーストタームプログラム」における「学びの精神」では、学生と教員との双方向の授業を実現するため、学生からリアクションペーパーや小レポートの作成及び提出を求め、科目担当者からのフィードバックを行うこととしている。このフィードバックを充実したものとするため、提出されたリアクションペーパー等を科目担当者と連携して添削指導等を行う「教育コーチ」（博士課程後期課程の学生、ポスト・ドクトラルフェロー、科目担当教員が選出した学外者等）を活用する。

＜教育研究コーディネーター＞

2015（平成27）年4月に、本学の国際化に係る取組みを統括する国際化推進機構（以下「機構」という。）を新設し、RG24 及び TGU で掲げた、「全ての学生に海外体験」、「外国人留学生 2,000 名」等の目標の達成に向けて、留学・海外研修プログラムの充実・拡大を進めているところである。この機構に、下表の業務を行う「教育研究コーディネーター」を新たに配置し、各学部・研究科における学生の海外派遣及び留学生の受入れに対する支援を行っている。

【国際化推進機構所属の教育研究コーディネーターの主な業務】

担当業務	具体例
学部・研究科等派遣留学プログラム開発及び学部間協定校開拓に関わる海外大学との連絡補助	・ 英文資料作成 ・ 連絡調整 ・ 情報収集 等
学部・研究科等派遣留学プログラムの実施運営に関わる事務補助	・ 参加者募集 ・ 渡航前後指導 ・ 渡航中の連絡 等
学部間協定校からの留学生受入れに関わる事務補助	・ オリエンテーション 等

＜新たな TA/SA 制度＞

制度導入後 10 年余りが経過し、TA の活用実態が多様化してきたこと、「RIKKYO Learning Style」の開始により、学生の主体的な学びを促すために「教育コーチ」、TA/SA 等の積極的な活用が求められること等から、現行の TA を下表のとおり 3 職種に分けることとした。このうち、「Middle TA」は現行の TA と同じ業務内容であるが、新たに「Senior TA」を追加したことにより、課題添削補助、試験・レポートの採点補助、授業運営補助など、教育内容に関わる補助業務の範囲が拡大した。

【新たな TA/SA の職種等】

職種	従事できる対象者	主な業務内容（仮）
スチューデント・アシスタント (SA)	学部学生・大学院学生	・ 資料配布 ・ 出欠確認 等の補助業務
ジュニア・ティーチング・アシスタント (Junior TA)	学部学生・大学院学生	SA 業務のほか、 ・ ピアティーチング ・ 初年次学生への指導補助
ミドル・ティーチング・アシスタント (Middle TA)	大学院学生	Junior TA 業務のほか、 ・ 学生指導補助 ・ 実験・実習補助 ・ 小テストの採点補助 等
シニア・ティーチング・アシスタント (Senior TA)	大学院学生 ※後期課程	Middle TA 業務のほか、 ・ 課題添削補助 ・ 試験・レポートの採点補助 ・ 授業運営補助 等

(エ) 施設・設備の変更内容について

本申請に伴う外国人留学生の受入れ増加に伴い、日本人学生と外国人留学生との混住型学生宿舎の確保を進めているほか、2005（平成 17）年以降、教育研究施設、図書館及び学生が創造的・能動的な学習を行うスペースの新設又は改修を行ってきたため、本申請による収容定員の増加に充分に対応できる施設・設備を担保していると言える。

<混住型学生宿舎>

現在、3棟の国際交流寮（日本人学生と外国人留学生との混住型。以下同じ。）を有しているが、外国人留学生の受入れの増加等に備え、キャンパス近隣の不動産を借り上げるなど、国際交流寮の更なる確保を進めている。これにより、2017（平成 29）年度には、約 130 人分の居室の増加が見込まれている。

<教育研究施設>

2005（平成 17）年以降に新設した主な施設は下表のとおりであり、多くの教室、研究室等を新設した。

【主な新設施設】

建物名称	竣工年月日	建物用途	階数	建築面積	延床面積
11号館	2005. 03. 15	教室・模擬法廷・院生室	B1+6F+P1	720. 09	5016. 95
14号館	2009. 03. 15	教室	B1F+6F	648. 43	4, 317. 08
マキムホール（15号館）	2011. 03. 28	事務室、研究室、教室	B1F+13F+P1	995. 42	9705. 45
ロイドホール（18号館）	2012. 07. 16	図書館、会議室、研究室	B2F+8F	322. 04	20, 644. 36
ホール・ラッシュ・アスレティックセンター	2013. 01. 16	体育館・屋内プール	B2F+5F	2, 565. 85	14, 725. 34

<図書館>

池袋及び新座の両キャンパスにおいて、閲覧サービスに加えてデータベース講習、ラーニング・アドバイザー（博士課程後期課程学生）によるレポート・論文作成支援、PC ヘルプサービス、コンピューター機器の貸し出しなど、学習支援に重点を置いた図書館の新設、改修等を行った（池袋図書館については資料 4、新座図書館については資料 5 参照）。

<ラーニングcommons>

両キャンパスに、無線 LAN 環境やマルチメディア設備が整った、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート等の創造的・能動的な学習を行うラーニングcommonsを整備した（池袋キャンパスについては資料 6、新座キャンパスについては資料 7 参照）。

学則の変更の趣旨等を記載した書類に係る添付資料

(目次)

資料 1	RIKKYO Learning Style (冊子) 及び2016大学案内 (P22～25)	・・・	1
資料 2	社会学部国際社会コース (学部パンフレット抜粋)	・・・	7
資料 3	異文化コミュニケーション学部Dual Language Pathway (学部パンフレット抜粋)	・・・	9
資料 4	池袋図書館 (図書館紹介冊子)	・・・	11
資料 5	新座図書館 (図書館紹介冊子)	・・・	17
資料 6	ラーニング・コモンズ (HPから抜粋/池袋キャンパス)	・・・	23
資料 7	ラーニング・コモンズ (HPから抜粋/新座キャンパス)	・・・	27

資料1のうち RIKKYO Learning Style (冊子) 省略

1, 書類等の題名

RIKKYO Learning Style

2, 出典

立教大学

3, 引用範囲

ウェブページ「RIKKYO Learning Style」

<http://www.rikkyo.ac.jp/learningstyle/common/pdf/pamphlet.pdf>

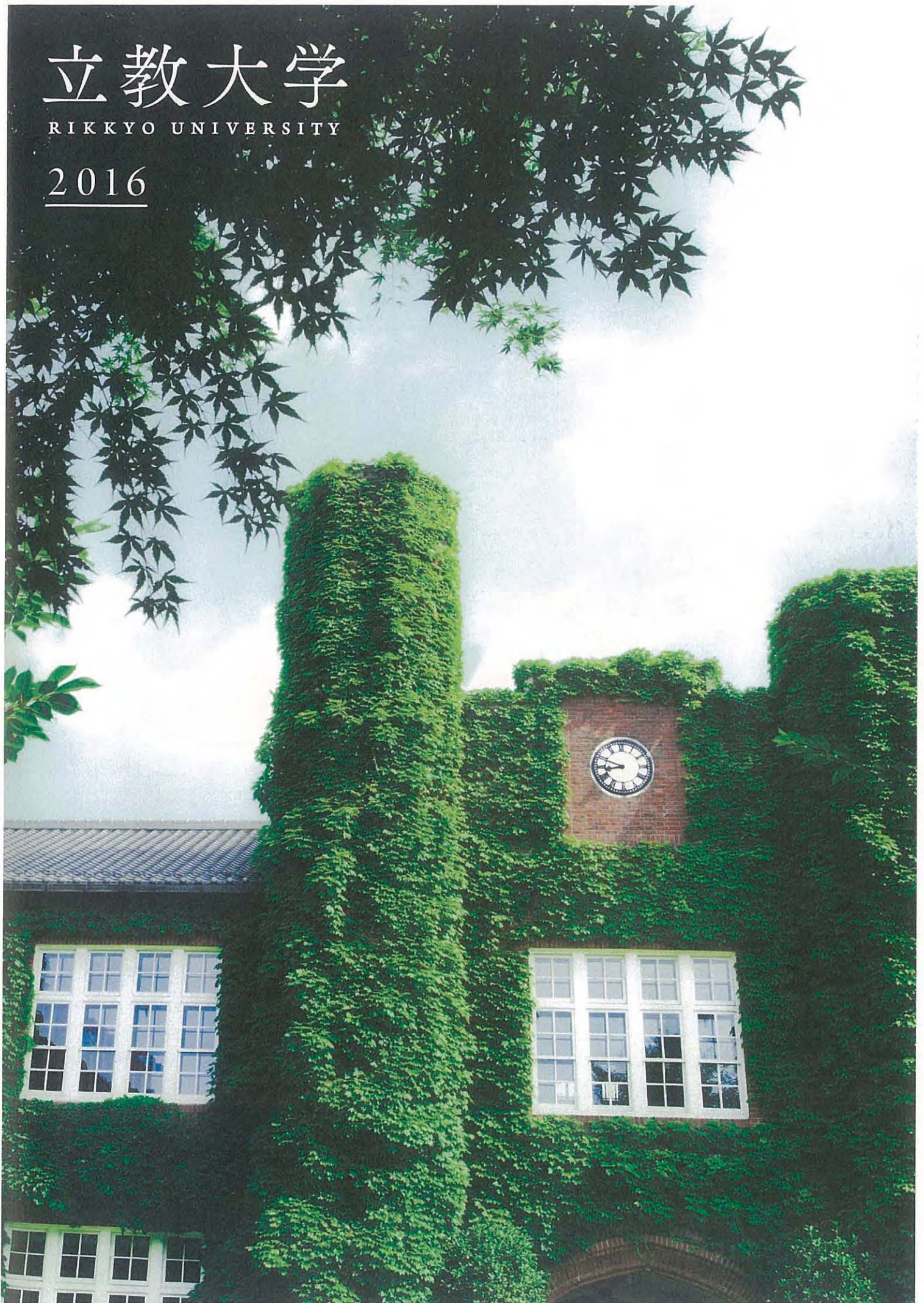
4, その他の説明

特になし

立教大学

RIKKYO UNIVERSITY

2016



導入期の学び

「学びの精神」、「学びの技法」を中心に、大学という新しい場で学修する意味を学び、大学での学びに必要な基礎学力を身につけます。スポーツ実習も導入期から履修することができます。

立教ファーストタームプログラム

[学びの精神]

立教大学での学びを理解する

大学での学びをはじめのあたり、大学で学ぶこと、また時に立教大学で学ぶことの意味について理解していく科目群です。「宗教」「人権」「大学」という3つの基本テーマを多様な観点や主題をまじえて講義する科目が設置されています。教員との対話や議論、学生同士の協働作業などを通して大学の講義の受け方を体得し、自ら調べ考える、大学での学びの姿勢を身につけます。

- 世界史の中のキリスト教
- 思想を生み出すキリスト教
- 国際社会の中の宗教
- 人文学からの学び1
- 芸術学からの学び
- グローバル経済社会を考える
- 法と政治の世界
- 現代社会と観光
- 現代社会の諸相
- 平和へのアプローチ1
- 自然科学の探究
- 人間科学からの学び
- 現代心理学からの学び
- 人権とジェンダー
- 青年心理と学生生活
- ライフマネジメントと学生生活
- 立教大学研究1
- サービスラーニング入門
- 大学で学ぶということ
- 地域からの学び

[学びの技法]

4年間のあらゆる学修に必要な基礎を身につける

各学部による少人数教育の授業により、その後のさまざまな授業科目を学んでいくうえで必要となる知識、スチューデントスキル（マナー、人間関係づくり、自己分析、学習目標づくり、学生生活・習慣、タイムマネジメント）、スタディ・スキル（文献検索方法、レポートの書き方、プレゼンテーションスキル等）、情報リテラシーなどを身につけます。

- | | | | | |
|--------------------------|----------------------|--------------------|----------------------|----------------------|
| 文学部
● 入門演習 | 経済学部
● 基礎ゼミナール など | 理学部
● 物理の学び方 など | 法学部
● 基礎文献講読 | コミュニティ福祉学部
● 基礎演習 |
| 異文化コミュニケーション学部
● 基礎演習 | 経営学部
● リーダーシップ入門 | 社会学部
● 基礎演習 | 観光学部
● 観光調査・研究法入門 | 現代心理学部
● 現代心理学入門 |

スポーツ実習

スポーツプログラム

心身に関する知識や技術を習得する

健康維持・増進のための科学的知識を学び、実践を通じて健康の基礎作り、体力の向上をめざすと同時に、スポーツの文化的背景を理解し、心身に関するバランスのとれた知性や判断力を養うことを目的とした科目です。

- スポーツプログラムA～L
- 【種目】
卓球/テニス/トレーニング初級/はじめてのバレエ/
バスケットボール/バレーボール/フラッグフットボール/
バドミントン/クライミング

スポーツスタディ

実技に加え、講義も学ぶ

スポーツプログラムと同じ目的を達成するための科目ですが、スポーツスタディは、スポーツ実践に加えて全体の3分の1程度の講義が含まれる実技・理論統合型の科目です。

- スポーツスタディ1～3
- 【種目】
アダプテッドスポーツ/ゴルフ/ウォーター・エクササイズ/
ダイエットフィットネス/サッカー/フットサル（インドア）/
セルフケア・エクササイズ/太極拳/卓球/テニス/
東洋的フィットネス/トレーニング/バスケットボール/
バレーボール/フットサル/ボディシェイプ/
レクリエーションスポーツ/はじめてのマラソン/バドミントン

下記は学外集中科目
ゴルフ/ネイチャーキャンプ/馬術/スキー

形成期から完成期の学び

専門科目とならんで「多彩な学び」を履修することで、自分の専門性を深めると同時に、その可能性を横に広げます。また、留学やさまざまな特色あるプログラムにより、グローバルな視点から社会に役立つ力を身につけます。

多彩な学び

幅広い知識と教養、判断力を養う

専門分野の枠を越えた幅広い知識と教養、総合的な判断力を養うことを目的とした科目です。立教大学が重視するリベラルアーツ教育の軸となる講義科目群で、主題別の科目編成に基づいた、多様かつ今日的なテーマを扱う6つのカテゴリから構成されています。

第1カテゴリ | 人間の探究

- 聖書と人間
- イスラームの世界
- 仏教の世界
- 日本の宗教
- Environmental Studies in Japan

第2カテゴリ | 社会への視点

- 入門・経済教室
- 現代社会の解読
- 法と社会
- シティズンシップを考える
- Tokyo Studies

第3カテゴリ | 芸術・文化への招待

- 文学への扉
- 美術の歴史
- 音楽と社会
- 身体表現と哲学
- Japanese Culture 1

第4カテゴリ | 心身への着目

- 心の科学
- 身体パフォーマンス
- スポーツの科学
- アウトドアの知恵に学ぶ
- Japanese Mind

第5カテゴリ | 自然の理解

- 数学の世界
- 身近な物質の化学
- 情報科学A
- 自然と人間の共生
- Nature Studies in Japan

第6カテゴリ | 知識の現場

- GL301(マレーシア/ハワイ)
- 国連ユースボランティア
- 陸前高田プロジェクト
- 国際協力テラシー
- RSL-2(持続可能な社会と市民の役割)

「多彩な学び」のうち、特に特徴的な科目を以下にいくつかご紹介します。

コラボレーション科目

多角的視点からテーマを深く掘り下げる

第1から第5カテゴリで展開される授業のうち、専門分野の異なる複数の担当者が、コーディネーターを中心に緊密に協力しながら授業を進める科目です。ひとつのテーマを多角的視点からとらえ、総合的にアプローチしていきます。

- 睡眠を科学する
- 翻訳・通訳と現代社会
- 少女歌劇の100年
- 「婚活」現象を考える
- 大学をプロデュース論
- 社会人への階段
- 東西世界をつなぐ近世東南アジア
- ボランティア・「耕す知」と「共生」の探求
- オリンピック 東京からTOKYOへ
- クリエイティブ・プロデュース論
- 市民による知識創造の可能性
- 震災復興とコミュニティの再編
- キャンパスデザインの思想と立教スピリット
- 社会で学ぶこと、立教生ができること
- しょうがい者の視点からみる現代社会
- 立教建学の理念から考える人権
- 立教OBOGの「社長の履歴書」 など

立教ゼミナール

広い視野や論理的思考を身につける

第1から第5カテゴリで展開される授業のうち、異なる学部・学年の学生がひとつのテーマをめぐって議論することを通し、専門領域にとられない広い視野と、立場の異なる相手を尊重しながら自らの意見を論理的に主張できる能力を高める実践的な科目です。より高度で学際的な授業をめざす発展編も用意しています。

- 社会科教育実践に学ぶ社会認識の方法
- 自らの頭で思考するとは何か：モンテニュー『エッセー』を読む
- 自然を物理的に理解する
- 簿記・財務諸表の基礎
- 文化法則発見の旅
- ワークショップを通じて学ぶ「持続可能な暮らし」と「幸せ」
- 物語に投射される現代社会の諸相 など

立教ゼミナール発展編

専門性を高め、視野をさらに広げる

完成期をむかえる3・4年次を主な対象とした立教ゼミナールです。異なる学部の学生が、高度で学際的なテーマをめぐって、それぞれの専門性に根ざした議論をおこない、自らの専門分野についても客観視できる幅広い視野を身につけることをめざします。

- イギリス近代史上の人物の多角的研究
- 法と経済学(Law and Economics)
- 自分に適したスポーツ種目を探す
- シャルル・ペロー『童話集』の謎をスリリングに読み解く

グローバル・リーダーシップ・プログラム

グローバル企業・組織で発揮できる
リーダーシップを養う

権限やカリスマ性のいらないリーダーシップを身につけ、チームワークを活性化する能力を開発する教育プログラムです。グループごとに与えられた課題・テーマに取り組むプロジェクト型学習を通じてリーダーシップやフォローシップのスキルを磨きます。

2015年度開講科目

- GL101 (*経営学部学生履修不可)
- GL201
- GL202
- GL301 (マレーシア/ハワイ)
- GL302

※GL101、GL201以外は、すべて英語で行われます。

国連ユースボランティアプログラム

開発途上国で、約5カ月間、国連や政府機関、
NGOスタッフ、現地の人々とともに活動する

国連機関である国連ボランティア計画と大学とが連携し、学生を開発途上国へボランティアとして派遣するプログラムです。派遣される学生は、情報通信技術(ICT)、教育、環境、保健衛生等の分野で、開発途上国において指示業務書の範囲で業務を任せられます。国連による派遣者選考があります。

2015年度開講科目

- 国連ユースボランティア

陸前高田プロジェクト

陸前高田の現状を知り、
「共に生きることは何か」について考える

震災前から立教大学と交流のある岩手県陸前高田市で実施します。留学生とともに、被災地の現状を知り、復興に関する課題を考えるプログラムです。

2015年度開講科目

- 陸前高田プロジェクト

「国際協力人材」育成プログラム

大学の枠を越えグローバルに活躍する力を
身につける

立教大学、明治大学、国際大学(新潟県)の3大学で連携して取り組む教育プログラムです。英語による授業が3つの大学で開講されます。他の2大学のキャンパスで学修することもでき、体系的に学べるよう「モチベーション・パス」と「キャリア・パス」の2種類から構成されています。それぞれの修了要件を満たせば、本人の申請により修了証が授与されます。

2015年度開講科目

〈開講大学〉

- グローバル・イシュー各論 ————— 立教、明治
- グローバル共通教養総論 ————— 立教、明治
- ソリューション・アプローチA(国際人権系) ————— 明治
- ソリューション・アプローチB(開発経済系) ————— 立教
- ソリューション・アプローチC(人道支援系) ————— 立教
- ソリューション・アプローチD(国際システム系) ————— 明治
- ソリューション・アプローチE(模擬国連・総合演習系) — 明治
- ソリューション・アプローチF(強制移転・移住系) ————— 立教
- ソリューション・アプローチG(紛争と平和) ————— 立教
- 国際協カリテラシー — 国際(集中)、立教・明治(事前・事後)
- アクティブ・リサーチ1 — スリランカ(集中)、立教・明治(事前・事後)
- アクティブ・リサーチ2 — 国内国際協力機関(集中)、立教・明治(事前・事後)

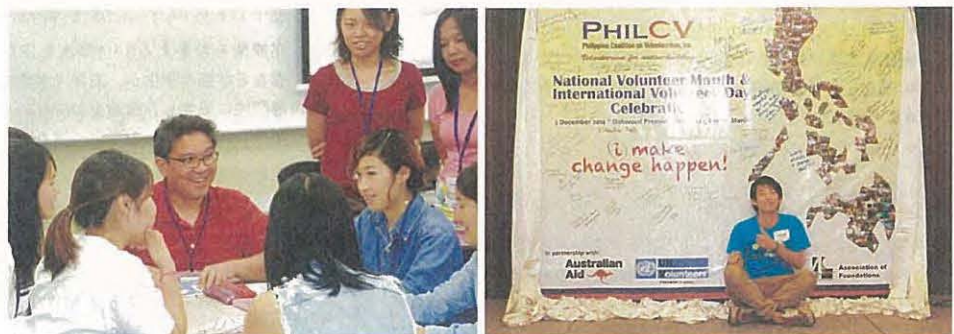
立教サービスマーケティングプログラム

身近な社会問題について、
体験と理論を結び付けて学ぶ

社会の現場での一定期間の活動と教室における理論的学習を統合した実践型の教育プログラムです。社会活動のフィールドは、国内(都市近郊型、農山村型)および海外となっています。

2015年度開講科目・プログラム

- RSL-1(自立と社会福祉)
- RSL-2(持続可能な社会と市民の役割)
- RSL-3(フィリピン・トリニティ大学との協働プログラム)



インターンシッププログラム

業界・企業を知ること
社会の仕組みを理解し、学びの重要性を知る

企業等の実社会で実習し、就業体験をするのがインターンシップです。参加することにより、自分自身で気づき、考える力がつきます。自ら実習先を探し、企業に直接応募するケースが一般的ですが、本学独自の「立教型インターンシップ」は、2014年度は夏季休業期間の中で1～2週間程度、77社5自治体11団体で実施しました。実施に際し、ガイダンスや事前・事後研修など一連のプログラムを展開しています。また、各学部ごとにカリキュラムとして位置づけられたプログラムを実施しています。学部の特性にあった企業で実習することができます。

他学部科目

関心のある研究分野など他学部の開講科目も学べる

各学部の専門科目は、学部学科によって多少異なるものの、選択科目や自由科目を豊富に用意しています。各自の関心や問題意識に応じて学べるよう、他学部開講科目の履修も一部を除いて認めています。学部学科によっては、定められた単位の範囲で他学部・他学科の科目を卒業に必要な単位に算入できることも、本学の大きな特徴のひとつです。

留学プログラム

語学を磨き、見識を広げる海外大学での学び

立教大学と国際交流協定を結んでいる海外の大学へ留学する大学間協定による「派遣留学」や、世界各国の大学間の相互交流を促進しているアメリカの非営利法人ISEPによる「交換留学」など、さまざまなタイプの留学プログラムを用意しています。各学部や国際センターなどが主催の夏季休業期間に行われる短期語学研修プログラムもあります。

f-Campus (5大学間単位互換制度)

他大学のキャンパスで多様な科目を履修できる

協定他大学のキャンパスに直接出向き、多様な科目を履修することができます。科目数は5大学でおよそ1,300科目あり、それぞれの開講科目を提供しています。修得した単位を一定の範囲で所属学部の卒業要件単位に組み入れることも可能です。

(※詳しくはwww.f-campus.org)



正課外活動

人との交流や新しい体験が人間的な成長につながる

立教大学では、多くの学生が積極的に何らかの正課外活動に取り組んでいます。正課外活動には、学部や学年を越えたさまざまな仲間との出会いがあります。学生時代にしか味わえない貴重な体験の中から、目標を達成する喜びや他人と分かり合えることのすばらしさを知り、人間的に成長する機会が得られます。

[チャレンジプログラム]

P.136

日常の学生生活も“学びの場”とするために、新入生対象「新入生キャンパスin清里」や「林業体験」、「クリエイティブ・コミュニケーション」などのさまざまな正課外教育プログラムを実施しています。

[クラブ・サークル]

P.137

運動系や文化系、伝統のあるクラブから新しいことに取り組むサークルまで豊富にあり、池袋と新座、キャンパスの垣根を越えて交流が行われています。

[資格取得]

P.142

在学中、あるいは卒業後のキャリアアップ支援として各種資格に対応したプログラムを設けています。教職課程をはじめとする「学校・社会教育講座」のほか、「立教キャリアアップセミナー」では外部専門機関と提携して公務員講座などを学内開催しています。

[グローバルラウンジでの異文化交流]

P.128

学内における国際交流および留学情報発信の拠点として、池袋・新座の各キャンパスにグローバルラウンジを設置しています。留学アドバイザーや学生スタッフによる交流イベント、各種留学・交流プログラムの参加者募集説明会などを開催しています。



[ボランティア]

P.132

人との関わり、社会との関わりをさまざまな視点・立場から実際に体験する方法のひとつとして、ボランティアセンターを設置し、ボランティア活動を推進しています。ボランティア情報の収集・提供、ボランティアコーディネーターによる相談、ボランティアを考えるきっかけとなるセミナーや映画鑑賞会、社会問題などに目を向ける講演会を行っています。

Q 社会学部では 国際化に力を入れているの？

A グローバルな視点から日本と海外の社会・文化を理解し、地球市民として活躍できる人材を育てるため、2016年度から国際社会コースを開設します。

社会学部ではグローバル経済において活躍できる職業人としてだけでなく、家族・地域など人生のさまざまな場面において、今後予想される不確実な変化に積極的に適応し、地球社会に貢献できるグローバルな教養人・市民の育成をめざしています。この目標を意識的に追求したい意欲ある学生のために、2016年度から国際社会コースを開設します。

国際社会コースの概要

- 1 国際社会コースは、(1) 英語の運用能力を向上させることと (2) 英語によって社会学を理解することを目的とした学部英語カリキュラムを中心に構成されたコースです。
- 2 国際社会コースは、1学年各学科15名計45名で構成し、2年次にコースを選択します。ただし、国際社会コース入試による入学者は入学時点でコース選択が決定しています。
- 3 国際社会コースの選択者は、学科の所属にかかわらず、学科横断的な「国際社会コース指定科目」を履修します。また3年次の「専門演習2」、4年次の「卒業論文演習」は、他の学生と同様に選択できます。

社会学部の英語科目

社会学部では、英語を読む、書く、聞く、話すの4技能を同時並行的に展開する学部英語科目を準備しています。いずれも2年次以降に履修する20名以下の少人数クラスです。なお、これらの科目は、一部を除き、国際社会コースを選択しない学生も履修できます。

● Reading Sociology in English

授業内容：社会学を英語で学ぶことの重要性を理解するために、社会学の教科書を英語で読むことを基本としたゼミ形式の授業です。2年次に学科ごとに開設され、国際社会コース選択者が必ず履修しなければならない科目です。

● Introduction to Sociology

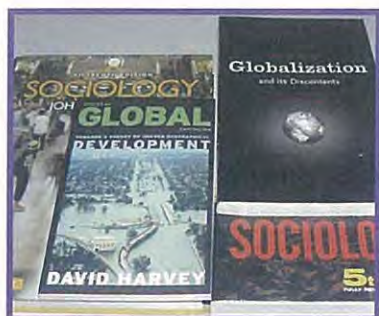
授業内容：英語の運用能力を活用し、討論や口頭発表の要素を大幅に取り入れた授業です。海外の教科書や資料を使い、多様な見方や考え方に会うことを目的としています。国際社会コースの学生は、複数開講される授業からひとつを履修しなければなりません。

● Lecture & Discussion on Sociology

授業内容：英語で現代の重要な社会的・文化的・時事的テーマを深く学び、これらのテーマに関して英語で自在に発表し、かつ積極的に討論する力を養うことを目的としています。国際社会コースの学生は、6種類の授業から2つを履修しなければなりません。

● Writing Academic English

授業内容：英語の論文の基本的な組み立て方と論理を理解し、英語で論文を作成することに習熟することを目標にした授業です。国際社会コース選択者は、複数開講されるこの授業をひとつ履修しなければなりません。



国際社会コースの履修モデル

		1年次	2年次	3年次	4年次
		〈導入期〉		〈完成期〉	
社会学科	演習系	基礎演習	Reading Sociology in English	専門演習2	卒業論文演習1,2 卒業論文
	演習系(英語)		Introduction to Sociology Lecture&Discussion on Social Issues B	Writing Academic English B Lecture&Discussion on Social Issues A	
	多様な言語	英語・初習言語		言語自由科目	言語自由科目
	社会学理論系	社会学原論 1,2 自己と他者の社会学 情報社会論 環境社会論 ジェンダーの社会学	現代社会変動論 社会学史		
	社会学各論		社会階層論 労働社会学 家族社会学 社会運動論 差別と偏見の社会学	公共性の社会学 公共政策とガバナンス 少子・高齢社会論 社会問題の社会学	地域社会学
	社会調査系	社会調査法 1,2	社会調査法3 社会統計学 質的調査法	多変量解析	社会調査演習
	国際社会学系	開発・発展の社会学 「人間の安全保障」と NGO	紛争と和解・共生 グローバル社会論 グローバルイゼーション論 グローバル・コミュニケーション論	国際社会学 NPO / NGO の社会学	グローバル都市論 エスニシティ論 マイグレーション論
	キャリア科目		職業選択・キャリア形成論		
	全学共通科目	学びの精神		スポーツ実習 多彩な学び	立教ゼミナール
	現代文化学科	演習系	基礎演習	Reading Sociology in English	専門演習2
演習系(英語)			Introduction to Sociology Lecture&Discussion on Culture B	Writing Academic English B Lecture&Discussion on Culture A	
多様な言語		英語・初習言語		言語自由科目	言語自由科目
社会学理論系		社会学言論 1,2 文化の社会学理論 都市社会学 情報社会学 文化人類学	環境社会学論 文化変容論	現代社会変動論	
社会学各論		地域社会学	社会階層論 ライフコース論 福祉の社会学	アートの社会学 差別と偏見の社会学	少子・高齢社会論 共生社会学
社会調査系		社会調査法 1,2	社会調査法3 社会統計学 質的調査法	多変量解析	社会調査演習
国際社会学系		グローバルイゼーション論	グローバル社会論 グローバル都市論 マイグレーション論 国際関係論 国際社会学 NPO / NGO の社会学	開発・発展の社会学 紛争と和解・共生 エスニシティ論	グローバル・コミュニケーション論 環境政策論
キャリア科目			外国人居住者支援インターンシップ(仮称)		
全学共通科目		学びの精神		スポーツ実習 多彩な学び	立教ゼミナール
メディア社会学科		演習系	基礎演習	Reading Sociology in English	専門演習2
	演習系(英語)		Introduction to Sociology Lecture&Discussion on Media and Communication B	Writing Academic English B Lecture&Discussion on Media and Communication A	
	多様な言語	英語・初習言語		言語自由科目	言語自由科目
	メディアと社会	社会学原論 1,2 マス・コミュニケーション論 情報社会学	メディア・コミュニケーション論 ジャーナリズム論	現代社会変動論 開発・発展の社会学	社会階層論 差別と偏見の社会学 世論調査論
	メディア社会学		グローバル・コミュニケーション論 オルタナティブメディア論 比較ジャーナリズム論 マス・コミュニケーション史 メディア・リテラシー 危機管理論 コミュニケーション政策論	写真・ジャーナリズム論 出版・ネットメディア論 情報法 広告・PR 論	若者とメディア メディアとジェンダー
	社会調査系	社会調査法 1,2	社会調査法3 エスノメソッドロジー	言説分析	
	国際社会学系	グローバル社会論 国際関係論 紛争と和解・共生	国際社会学 多文化の社会学理論 エスニシティ論	比較社会・文化論	グローバル都市論
	キャリア科目		職業選択・キャリア形成論		
	全学共通科目	学びの精神		スポーツ実習 多彩な学び	立教ゼミナール

※ 授業科目の履修は、学問的関心、進路志望などにもとづき、各自で行うものですが、その一例として「国際社会コース」の履修モデルをご紹介します。参考にしてください。



二言語を同時に使って学ぶことで、 グローバル社会に生きる人材を育てます

異文化コミュニケーション学部では、
これからのグローバル社会に貢献できる人材を育成するための
カリキュラムプログラムとして
「Dual Language Pathway」を新たに設置します。

Dual Language Pathwayは、その名前の通り、英語と日本語、2つの言語を駆使して
4年間学んでいくプログラムで、いわゆる「English Track」とは異なります。

English Trackでは、英語だけを使って学んでいくこととなりますが、
異文化コミュニケーション学部のDual Language Pathwayでは、
日本語での学びも重要だと考えています。

多くの日本人にとって母語である日本語でしっかりと考え、理解し、発信する力に加えて、
国際語である英語で読み、書き、話し、聞く高度な力を身につけることが、
これからの世界に求められる人材だと考えるからです。

英語と日本語

Dual Language Pathwayでは、
深く正しい日本語力と高度な英語運用能力の習得を目指していきます。
そのために学部設置の英語で展開されている専門科目を中心に履修していきますが、
同時に日本語で展開されている科目の履修も必須となります。
日本語と英語を同時に使いながら学ぶという経験を通して
「二つの言語で意思疎通が図れる、教養ある人材」を目指し、
異文化コミュニケーションの知識を深めてほしいと考えています。

日本語と英語。この二つの言語を使って、考え、発表し、意見交換をする。
Dual Language Pathwayの4年間は、
参加した学生一人ひとりを大きく成長させることでしょう。

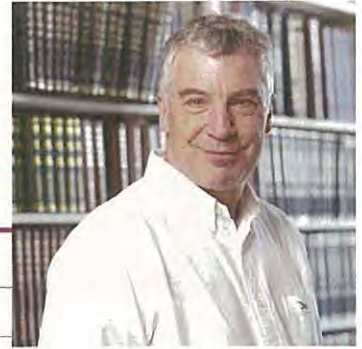


インフォメーション:

DLPは定員15名、秋に入試を実施します。

※学部の詳細、内容についてのお問い合わせは：[異文化コミュニケーション学部] Tel.03-3985-4824

※入試についてのお問い合わせは：[立教大学 入学センター] Tel.03-3985-2660



Dual Language Pathway | 履修の特色

- 1 卒業に必要な専門科目をすべて英語で学びます。
- 2 日本語で展開されている科目は、学生個々の興味関心ある科目より履修します。
- 3 卒業研究(論文)は必修。英語で論文を完成させます。
- 4 2年次秋学期には、学部間協定大学への1年間の留学など、長期留学を目指します。

※DLP受講の学生は、原則として全員が海外の大学で学びます。

Dual Language Pathway | 受講学生の履修モデル(学部専門科目)

1年次	2年次	3年次	4年次
<ul style="list-style-type: none"> Academic Skills A Academic Skills B Overview of Language and Communication Studies Overview of Global Studies College Life Planning A College Life Planning B Introduction to Communication 	<ul style="list-style-type: none"> Introduction to Intercultural Communication Introduction to Linguistics Introduction to Translation and Interpreting Studies Introduction to Mass Communication Introduction to International Development and Cooperation Cultural Exchange 	<ul style="list-style-type: none"> Advanced Seminar 1 Ethnicity and Globalization in Japan Language Policy and Multilingualism International Development and Sustainability Multiculturalism in Japan 	<ul style="list-style-type: none"> Advanced Seminar 2 Advanced Seminar 3 & Senior Research Religions in Japan Media in Japan Orientalism in Media Communication and Citizenship Translation and Interpreting in Multicultural Society Bilingualism Sociolinguistics Special Topics in ICC A Special Topics in ICC B
<p>Overseas Study Program B DLPの学生は、学部間協定大学への1年間の留学を目指します。 ■学部間協定大学 シドニー大学(オーストラリア) マンチェスター大学(イギリス) サンティエゴ州立大学(アメリカ) マザリク大学(チェコ) リュブリャナ大学(スロベニア)</p>			



日本語で展開されている学部専門科目の履修も推奨しています。

Dual Language Pathway | 受講学生が履修できる日本語科目一覧

言語研究関連科目群	通訳翻訳研究関連科目群	コミュニケーション研究関連科目群	グローバル・スタディーズ研究関連科目群
<ul style="list-style-type: none"> 言語学概論 英語学概論 日本語学概論A・B 心理言語学 社会言語学 認知言語学 語用論 文化記号論 第1言語習得理論 第2言語習得理論 バイリンガリズム研究 英語教育学 英語コミュニケーション教育学 英語科教育研究 外国語教育評価論 日本語学特論 日本語教授法A・B 日本語教育実習 言語研究調査法 	<ul style="list-style-type: none"> 通訳翻訳学概論 通訳入門 逐次通訳 同時通訳入門 翻訳入門 翻訳応用実践1・2 通訳翻訳実習 通訳翻訳の理論と研究 通訳翻訳と多文化社会 通訳翻訳の歴史 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション研究概論 異文化コミュニケーション概論 メディアコミュニケーション論 非言語コミュニケーション論 異文化トレーニング演習 異文化コミュニケーション特論A・B 対人コミュニケーション論 集団コミュニケーション論 説得コミュニケーション論 グローバル社会とコミュニケーション コミュニケーション・テクノロジーと社会 コミュニケーション研究調査法 コミュニケーション特論 	<ul style="list-style-type: none"> 国際協力・開発学概論 文化人類学概論 カルチュラル・スタディーズ概論 文化史概論 サステナビリティ学概論 多文化共生論 グローバル化と宗教 グローバル文化研究特論 カルチュラル・スタディーズ特論 グローバル化と思想 宗教文化論 エスニシティとナショナリズム 人と移動研究 言語文化論 グローバル化と言語 言語政策論 多文化共生特論 国際協力・開発学特論 開発と文化 紛争研究 環境コミュニケーション論 ESD論 環境教育論 環境思想論 英語圏環境文学論 フィールドワーク グローバル・スタディーズ研究調査法
<p>日本語教員養成プログラム 異文化コミュニケーション学部では、日本語を母語としない人々に日本語を教えるスキルを身につけることができるプログラムを置いています。所定の科目を修得し、卒業研究まで終えた学生には、修了証が授与されます。</p> <p>通訳・翻訳者養成プログラム 異文化コミュニケーション学部では、学部から大学院まで一貫性のある通訳・翻訳者養成プログラムを設置しています。学部4年間を通して、このプログラムを修了した学生には、修了証が授与されます。</p>			



立教大学池袋図書館



立教大学図書館

池袋キャンパス 〒171-8501 東京都豊島区高池袋3-34-1 TEL.03-3985-2809

伝統と革新の新図書館 誕生

サミュエル・メザー（Samuel Mather）氏の全面的な資金援助により1919年に開館した立教大学最初の図書館「メザーライブラリー」（図書館旧館）、丹下健三氏の設計により1960年に開館した図書館新館、そして人文・社会・自然科学系図書館。これらの図書館は現在に至るまで、立教大学の学習・教育・研究活動に大きく貢献するとともに、学生や教職員に親しまれながら広く利用されてきました。特に「メザーライブラリー」は、「図書館」という枠を超えた存在として、卒業生の心に刻まれています。

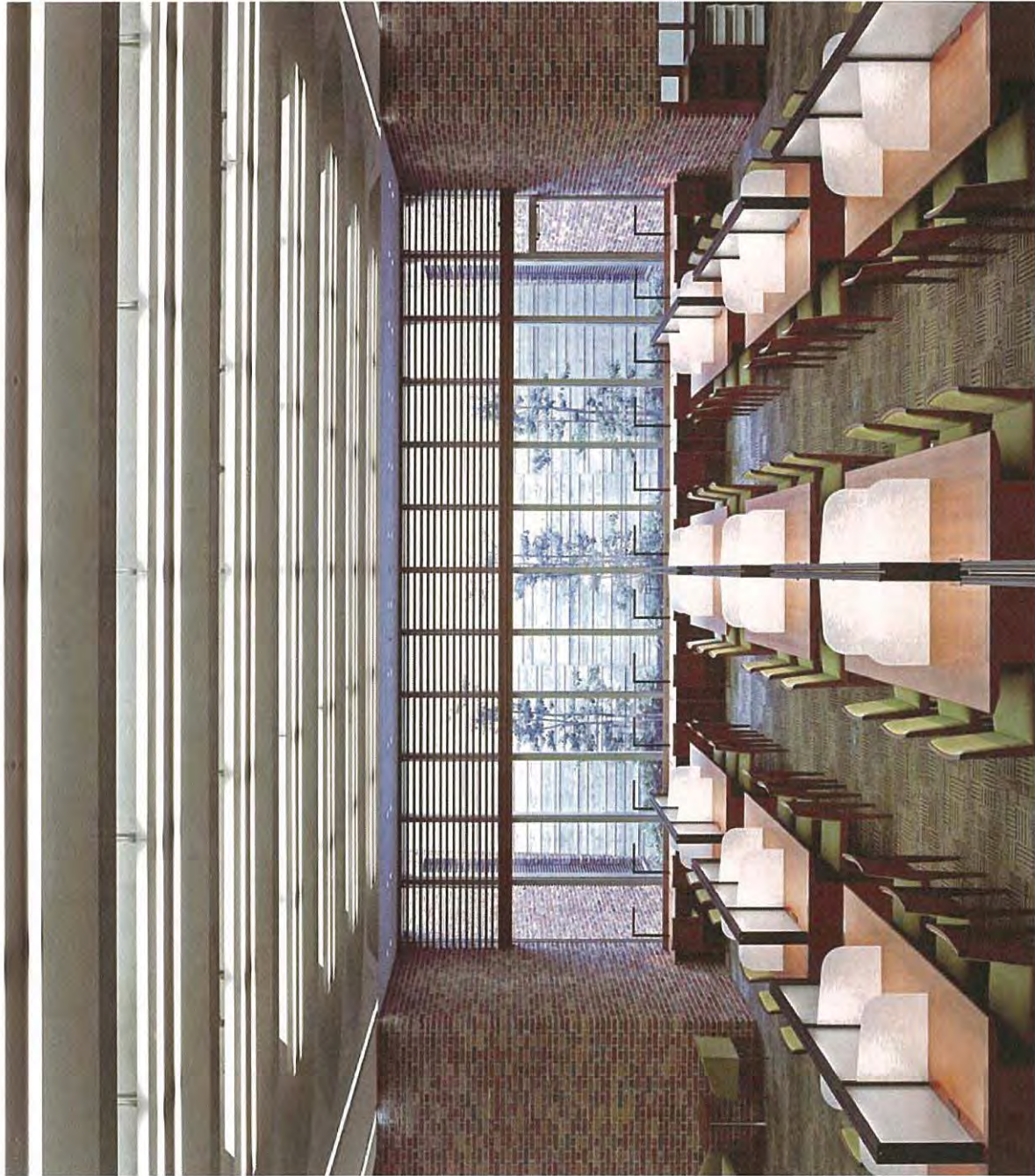
2012年に開館した「池袋図書館」は、これまでの図書館が果たしてきた役割を統合・一元化し、さらに発展させるため、長い年月にわたる利用を前提に建築計画を立て、随所に創意工夫を凝らして設計・施工しました。それは、時代の変化に対応できるフレキシビリティと時代の流行りに左右されることのない普遍性を兼ね備えた建物です。また、池袋キャンパスとの調和という観点から内外観ともに煉瓦を用い、モダン・クラシックを基調とした閲覧机や椅子、書架等をそなえました。

これまでの大学図書館は学術資料の収集・保存・提供を主たる目的としてきましたが、インターネットの普及とともに図書館を「舞台」とした情報リテラシー教育への関心も高まっています。「池袋図書館」は、従来の図書館機能にとどまらず、全ての閲覧エリアで無線LAN接続を可能とし、多くの閲覧席にLAN・電源コンセントを設置することでインターネット利用環境を向上させています。また、メディアセンターとの協働により600台にも及ぶPCを館内に用意しています。その他、学生の情報リテラシー獲得を支援するために、授業の1コマを利用した「授業内情報検索講習会」を中心とした多様な学習支援を展開しています。

近年、学生が能動的に知識や技能を獲得し、それを有効活用する手段を身につけるアクティブ・ラーニングが注目されています。「池袋図書館」には、情報共有のためのホワイトボードや大型ディスプレイ、PCを設置した大小8室のグループ学習室があります。また、多様な形態のグループがディスカッションをするなかで相互的な成果を追求していくための創造空間「ラーニング・スクウェア」には、移動・組み合わさる前提としたキャスター付きの椅子やグループワークに適した形状の机を配置し、学生のグループ学習をサポートしています。

今後、資料のデジタル化が進み、学びのスタイルが変化することで、「池袋図書館」のあり方も大きく変わるに違いありません。しかし、「メザーライブラリー」がそうであったように、ここで学んだ体験は、多くの人々の記憶に留まることでしょう。私たちは、「池袋図書館」がそのような「場」であり続けることを心から望んでいます。

立教大学図書館



デスクトップ印刷装置(1F)
LAN・電源コンセントが設置されています。

池袋図書館は、利用者が長時間滞在することを前提とした施設・備品を用意し、無線LANやPCなどICT環境を整えるとともに、アクティブ・ラーニングに対応したグループ学習室や講習会室も整備しています。

ICT 環境

ICT 環境を充実させ、図書館内での情報収集と学習・研究を強力にサポートしています。図書館内全域（地下2階除く）で無線LANの利用が可能です。また、地下1階～地上3階の全てのフロアにPC席を設け、各フロアのプリンターから自由に印刷できます。講習会室（50席×2室）のPCや貸出ノートPC（300台）を含めると図書館内では600台のPCが利用できることとなります。



グループ学習室

近年、グループ学習スペースへの需要が高まっています。図書館内外で学生が輪になって話をしながら学習を進める光景も、いたるところで見受けられるようになりました。グループ学習室8室（12人用×6室、18人用×2室）を2階に設置し、各室にはホワイトボードや大型ディスプレイ、PCを用意し、学生のインタラクティブな学びをサポートしています。



講習会室

多目的に使える講習会室（50席×2室）を用意し、授業のICTコマを利用した「授業内情報検索講習会」を実施しています。講習会がない時間帯には、学部が展開する図書館資料を用いた授業や基礎学習などにも利用可能です。その他、机や椅子を移動させてグループで自由活発な議論をすることもでき、自在な空間利用ができます。



ラーニング・スクウェア

図書館エントランス奥の1・2階に位置するラーニング・スクウェアはグループワークに適した組み合わせ可能な机やキャスター付きの椅子、ホワイトボードを完備しています。ラーニング・スクウェア2階では、メディアセンターとの協働によるPC貸出カウンターがあり、ノート型PCの貸し出しとともに、PCヘルプサービスを提供。ゼミ等の仲間が気軽に集まり活発な議論を展開しています。



リフレッシュルーム、テラス

利用者の長時間滞在に対応して、ベットボトル等のキャップ付飲料の館内持ち込みを認めています。また、飲料やパンの自動販売機を備えたリフレッシュルーム（地下1階）やテラス（3階）ではサンドイッチ等の軽食をとることもできます。その他、図書館のエントランス脇にはカフェも併設されています。



図書販売部
図書部各フロアを横切る階段とエントランスのイメージ

地上階（1階～3階）



インフォメーション（エントランス1F）
池田図書館の総合案内と入退館ゲートの管理を行います。



ラーニング・スペース（エントランス棟：1・2F）
グループワークができる学びの場です。



インフォメーションボード（ORA）端末棟1F
図書館からのお知らせや見聞への回答を掲示しています。



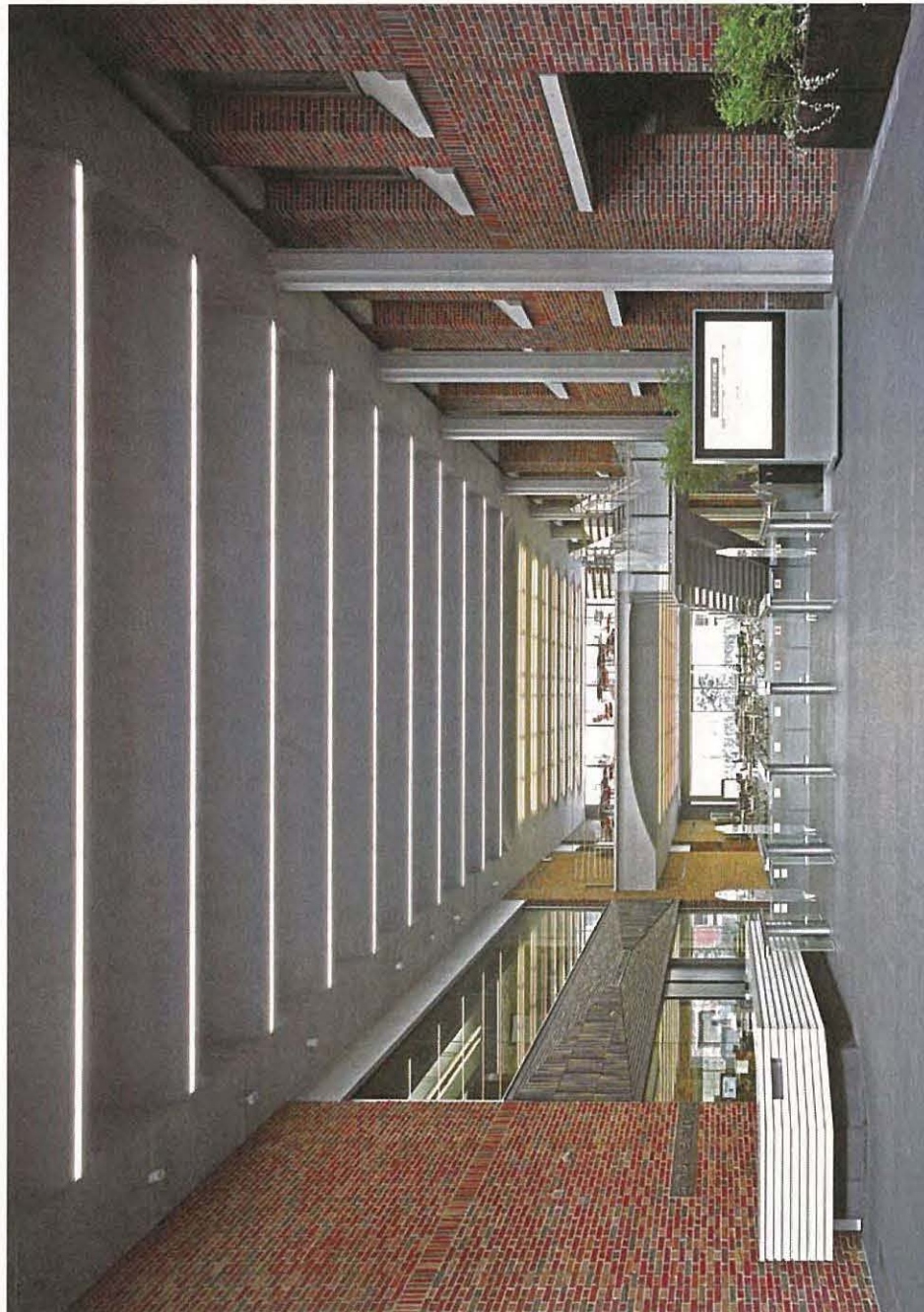
総合カウンター（1F）
資料の貸出・返却、自動書庫資料の受け渡しなどを行います。



ラーニングアドバイザー・PCヘルプカウンター（2F）
レポート作成支援やPC操作のサポートなどの学習支援を行います。



AVコーナー（2F）
映像資料や音楽CDを視聴できる10のブースがあります。



図書館エントランス（1F）/ラーニング・スペース（エントランス棟：1・2F）
図書館の開放「GN001 SEATTON」（仮 自身を知られ）がエントランス左手に掛けられています。

地下階 (地下1階～地下2階)



ロフト書架 (2階・3F)
フロア高を活かした2層式の書架で、中廻りを配線しています。



電動機密書架 (B1F)
開閉速度が速く、エアセンサーにより安全性も高い書架です。



圖書庫 (B1F)
ディスプレイを設置した開架式(LAN・電源センター付)です。



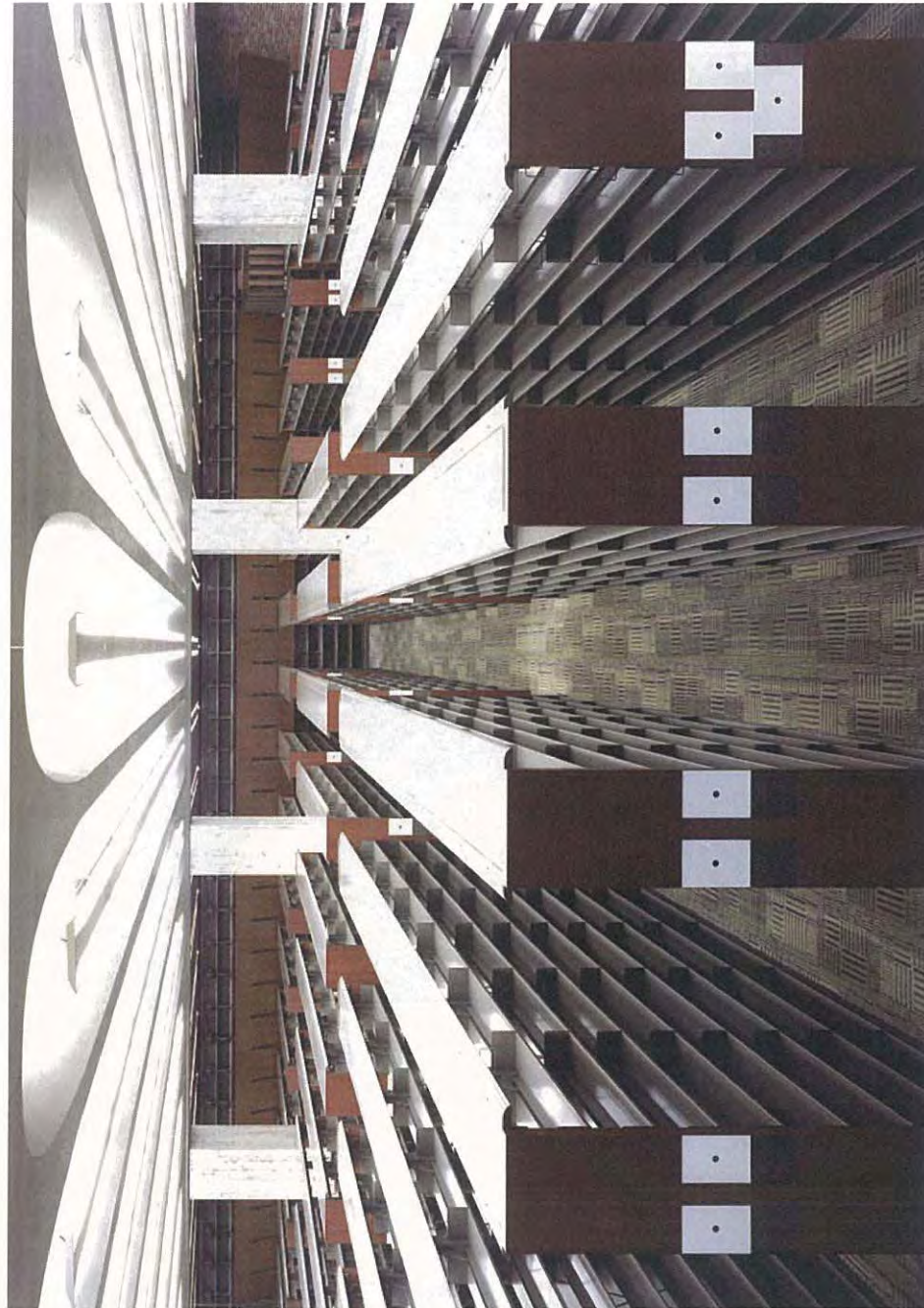
展示コーナー (B1F)
常設展示・立成開架書架と企画展示の2つのコーナーがあります。



自動書庫スチーション (B1F～3F)
自動書庫(B2F)の資料はB1F～3Fの全てのフロアに搬送可能です。



貴重書庫 (B2F)
資料の保管に最適な環境(湿度22度、湿度50%)が保たれています。

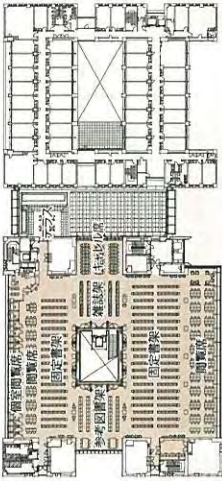


即定書架(手前)と2層式のロフト書架(奥)(B1F)
部際改修を兼ねた照明付固定書架とフロア高を活かした2層式のロフト書架です。

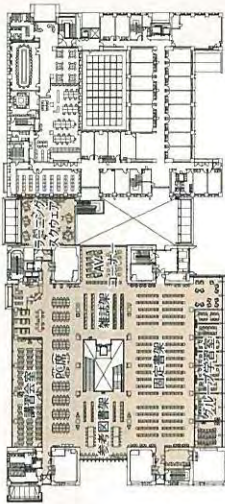
フロアマップ

池袋図書館は、新築したロイドホール(地下2階~地上7階)の地下2階~地上3階および既存の12号館(地下2階~地上8階)の地下2階~地上1階で構成されています。地下1階~地上1階は階高を合わせ、図書館フロアとして一体的に運用しています。

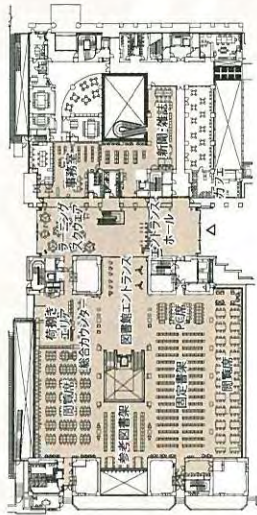
3階



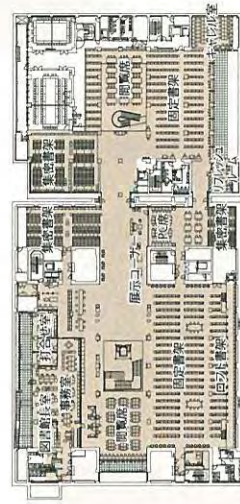
2階



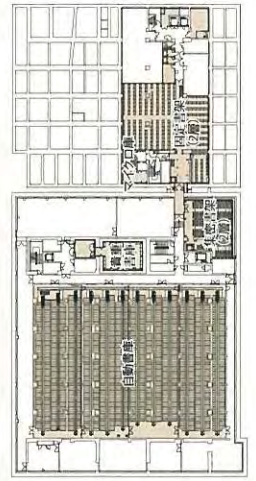
1階



地下1階



地下2階



池袋図書館 概要

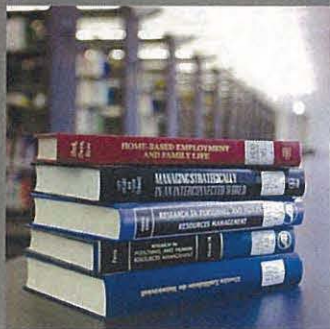
ロイドホール 地下2階~地上3階及び
12号館地下2階~地上1階で構成
延床面積 約19,000㎡
閲覧席数 1,520席
講習会室 100席 (50席×2室)
テラス・リフレクションルーム 32席
最大収蔵冊数 200万冊
内訳 固定書架 60万冊
電動集書架 40万冊
自動書庫 100万冊

設計監理：株式会社 日建設計

施工者 建築工事：清水建設株式会社
電気設備工事：東光電気工事株式会社
機械設備工事：株式会社 大成社
自動車庫工事：株式会社 四甲製作所
電動集書架工事：丸善株式会社・金剛株式会社
固定書架家具工事：丸善株式会社
図書館家具工事：丸善株式会社
サイン/一般備品工事：株式会社 東武百貨店
ロイドホール工期：2010年8月1日~2012年7月31日
池袋図書館工期：2012年9月22日(地上開)
2012年11月7日(地下開)

写真(右) 米倉写真事務所
編集・制作 株式会社 学研教育出版
印刷・製本 立教フロンティアステーション

企画・発行 立教大学図書館
発行日 2013年5月7日



立教大学 新座図書館

RIKKYO UNIVERSITY
NIIZA LIBRARY

2006

April



新座図書館全景

2006年4月、新座キャンパス(旧武蔵野新座キャンパス)に現代心理学部と大学院・現代心理学研究科が誕生しました。さらに観光学部には観光学科に加えて交流文化学科が、またコミュニティ福祉学部にはコミュニティ政策学科と福祉学科が新設され、ますます多様で特色あるキャンパスに成長しようとしています。

図書館もこれに伴い、武蔵野新座図書館から「新座図書館」に名称を変更し、増改築工事も終えて4月11日よりリニューアルオープンいたします。

新座図書館は、従来の2階建てからワイドなワンフロアになり図書館内を広く見渡せる空間になりました。新たに設置した入館ゲートを通ると、開放感のある明るいエントランスホールが広がり、左手には本の楽しさを生かした質感のある閲覧テーブルや書架並び、落ち着いた雰囲気を感じ出しています。また、右手はモニターカラーで統一されたモダンな空間を配し、図書館全体として調和するよう設計されています。加えて、閲覧席や検索用パソコンを増やし、利便性も向上しています。さらに、図書館内から2階のPC教室へ行き来でき、図書資料・PC・インターネットの複合型の利用がいつでも便利になっています。また、本学としては初めて自動搬送書を設置することにいたしました。

図書館の所蔵資料に映像関係など新たな分野のものも加え、今後さらに充実させていく計画です。新座キャンパスと池袋キャンパスの間には図書資料取り寄せサービスもあります。新しくなった新座図書館を今まで以上に積極的に活用していただけるものと確信しています。

新座図書館の誕生に尽力いただいたすべて関係者に謝礼申し上げます。

立教大学図書館長 吉森 正人



新座図書館の改修増築にあたって、この図書館のキャンパス環境での役割を「知のショールーム」と位置づけてデザインいたしました。

回廊に沿った大きなガラス越しに見える大量の書物と利用する人たちの姿が一つの魅力的な風景となってキャンパスの環境を活気づけ行き交う学生を招きます。館内のコンセプトは「学びのカフェ」です。授業の合間にふらりと立ち寄り、またとまった時間を好みの席でゆっくりと過ごすといった図書館本来の機能を更に心地よくつづげる空間としてデザインするためのキーワードです。

広々とした館内にはシンプルに書架を配置し利用者の目的と気分にあわせて自由に選べるパラエターに富んだ間接照明を採用しました。床吹き出し式の空調を採用して、館内は常に快適に保たれ、大きくとったトップライトによる自然光と穏やかな波形の天井デザインに反射する間接照明が目に優しく、柔らかな明かりの空間をつくりだしています。

株式会社日建設計

新座キャンパス・図書館の歩み



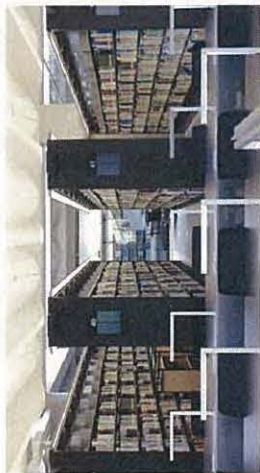
- 1 エントランスホール(階層カウンターを覆う)
- 2 階層部が吹き抜け
外階段コーナー
- 3 階層部は均等に照明
- 4 階層部が天井仕上げ
- 5 WTO建築賞
WTO賞は建築界の最高賞。WTO賞を受賞したのは、1999年現在の図書館。建築賞は2006年4月のリニューアルオープンから2008年現在まで。



新座図書館



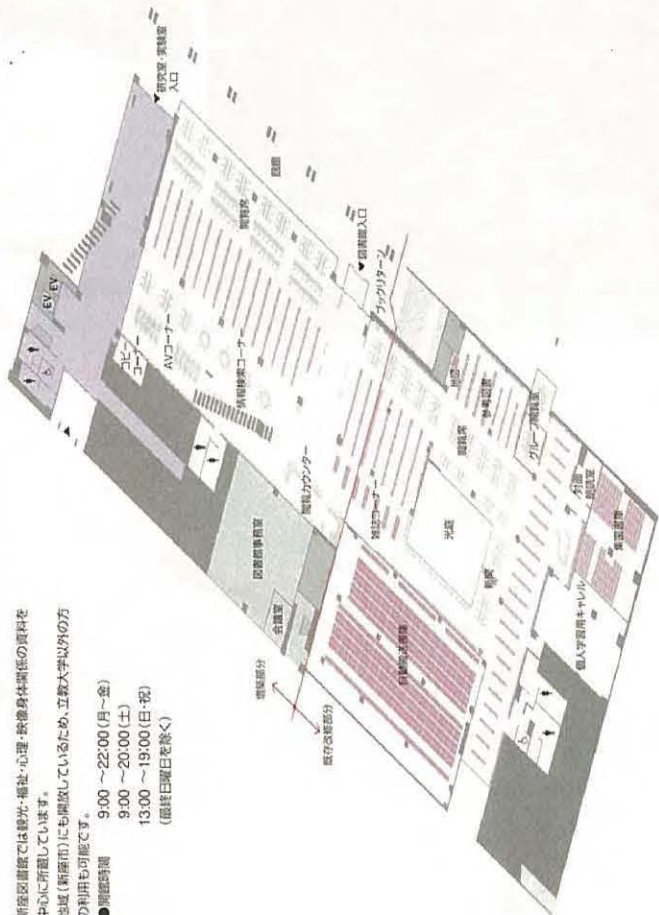
増設部の新しい閲覧席



増設部の新しい閲覧席

新座図書館では観光・福祉・心理・身体・障害者身体障害の資料を中心にご利用しています。
地域（新座市）にも開放しているため、立教大学以外の方の利用も可能です。

- 開館時間 9:00 ~ 22:00 (月~金)
13:00 ~ 20:00 (土)
13:00 ~ 19:00 (日・祝)
(最終日曜日を除く)



増設部の新しい閲覧席



新しい閲覧席OLEED照明



自動搬送装置

ご協力いただいた企業

- 建築設備設計監理 (株) 日建設計
- インテリア設計監理 (株) 日建設計スペースデザイン
- 移転コーディネート 日建マネージメントソリューションズ(株)
- 施工 清水建設(株)
- 電気設備 (株) きんでん(株) 九電工JV
- 機械設備 高砂熱学工業(株)・日立プラント建設(株)JV
- 情報システム 共信コミュニケーションズ(株)
- 家具備品 (株) 東武百貨店
- 書架・サイン 丸善(株)
- 自動搬送装置 金剛(株)
- 販売学習器設置 丸善(株)・(株)紀伊國屋書店

図書館の概要

構造	RC造 (フレキャスト・コンクリート、制振構造)
図書館面積	2,966.51㎡
蔵書収容能力	閉架 108,100冊 閉架集密書架(既存) 35,700冊 自動搬送書庫 200,620冊 合計 344,420冊
閲覧席数	閲覧席 260席 キヤレル 49席 AVブース 25席 検察席(ネット検索・OPAC)24席 その他(ベンチ、ソファ) 24席 合計 382席

立教大学新座図書館
〒352-8558
埼玉県新座市北野1-2-26
Tel.048-471-7132

立教大学ホームページ
www.rikkyo.ac.jp
立教大学図書館ホームページ
opac.rikkyo.ac.jp





メーザー・ラーニング・コモンズ

メーザー・ラーニング・コモンズについて

メーザー・ラーニング・コモンズ (Mather Learning Commons) は、学生の創造的・能動的な学習を行う場として、グループでのディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなどができるスペースです。無線LAN環境やインタラクティブディスプレイなど、個人またはグループでのさまざまな活動に対応可能な充実したマルチメディア設備が整っています。

ゼミや授業の発表準備だけでなく、正課外活動を含めた各種企画提案、発表の準備、就職活動のグループディスカッション・プレゼンテーションの準備などにも利用できます。個人での学習にも適したカウンター席も設置しています。ありとあらゆる学び・交流活動に積極的に活用してください。



[開館カレンダー](#)

[メーザー・ラーニング・コモンズ利用申請書](#)

[施設案内](#)

[設置機器](#)

[構内案内図](#)

[施設案内動画](#)

開館カレンダー

[開館カレンダー](#)

[TOPに戻る](#)

メーザー・ラーニング・コモンズ利用申請書 (※教職員用)

[メーザー・ラーニング・コモンズ利用申請書 \(※教職員用\)](#)

[TOPに戻る](#)

施設案内

2F



グループ学習A

大型ディスプレイを配置し、グループでのディスカッションができます。

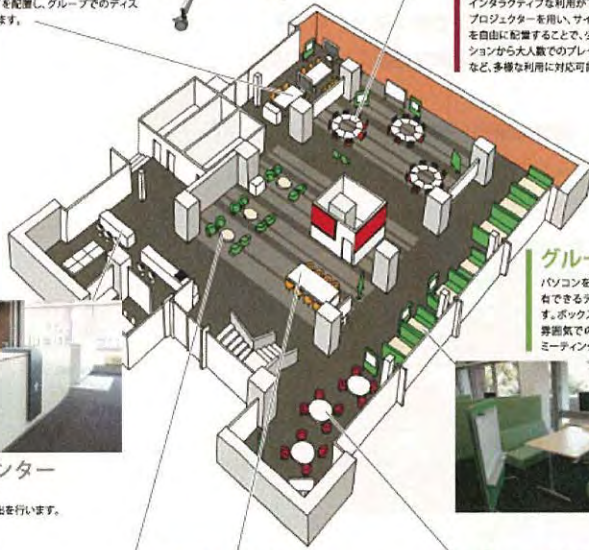


大型ディスプレイ



グループ学習B

インタラクティブな利用ができるディスプレイやプロジェクターを用い、サイドテーブル付の椅子を自由に配置することで、少人数でのディスカッションから大人数でのプレゼンテーションの練習など、多様な利用に対応可能なスペースです。



受付カウンター

受付カウンターにてノートパソコンの貸出を行います。

ラウンジ

丸テーブルを配置した少人数での会話スペースです。



グループ学習E

大テーブルと大型ディスプレイを配置した、グループ学習向けの空間です。



グループ学習C

パソコンを接続すると画面を共有できるディスプレイがあります。ボックス座でリラックスした雰囲気でのディスカッションやミーティングができます。

グループ学習D

大型ディスプレイやホワイトボードを利用して、ディスカッションやミーティングができます。



3F



グループ学習F

可動式のホワイトボードとスタンドを利用しながらディスカッションを行い、そのまま簡易的な発表も可能です。

グループ学習G

大型ディスプレイを配備し、グループでのディスカッションができます。



グループ学習H

可動式の机で多様なレイアウト・パターンでの利用が可能です。インタラクティブディスプレイを用いて相互的なディスカッションにも対応できます。

テラス

気分転換にもなる、開放感のある席です。



グループ学習I

大型ディスプレイやインタラクティブディスプレイ、ホワイトボードを利用し、可動式の机を自由に組み合わせることで多様なグループ学習、ディスカッションに利用できます。



▲インタラクティブディスプレイ



ラウンジ

1~2名程度で利用できるスペースです。

カウンター席

席に置いたカウンター席です。デスクトップパソコンを常設しているほか、貸出・持込みのノートパソコンを使えるよう机下にコンセントを設置しています。



◎ TOP1に戻る

設置機器

	場所	大型ディスプレイ	インタラクティブディスプレイ	ホワイトボード インタラクティブ プロジェクター	ディスプレイ
2階	A	●			
	B		●	●	
	C				●
	D	●			
	E	●			
	ラウンジ				
3階	F				
	G	●			
	H		●		
	カウンター				
	J	●	●		
	テラス席				

貸出ノートPC : 2F受付カウンター

オンデマンドプリンタ : 2F/3F (各1台) B5/A4/A3のモノクロ/カラー印刷が可能

常設デスクトップPC : 3Fカウンター席 (10台)

[TOPに戻る](#)

構内案内図



施設案内動画

日本語

English



[TOPに戻る](#)

YOUR LIBRARY

2012年、図書館が変わる…

新座と池袋それぞれに新施設が誕生!

新座キャンパスでは、現在は空きスペースとなっている6号館2Fエリアと図書館が一体化し、学習支援スペースである「(仮称)ラーニング・commons」としてこの4月にオープンします。

また、池袋キャンパスに今秋新たにオープンする中央図書館は、現在建築中のロイドホールの地下2階から地上3階までと、現在の社会科学系図書館を一体化させた、収蔵冊数200万冊、閲覧席数1500席となる国内の大学でも屈指の大規模図書館となります。

新座図書館2Fに「(仮称)ラーニング・commons」がオープンします。

4月、新座図書館2Fに新たにオープンするのは「(仮称)ラーニング・commons」です。グループ学習のための共有スペースという機能にとどまらず、図書館資料の利用やラーニングアドバイザーなどソフト面でのサポートも含めた総合的な学習支援スペースとなります。

「ラーニング・commons」と各室の名称については全て仮称となります。正式名称については新学期開始以降に公募予定です。

【グループ学習室 (4室)】

ゼミでの発表準備などに利用できる10人規模の部屋を4室設けます。グループでの議論や作業を行いやすいスペースで、ブルーレイデッキや、模造紙を広げやすい大きな机を配置するなどの工夫が各室に盛り込まれています。

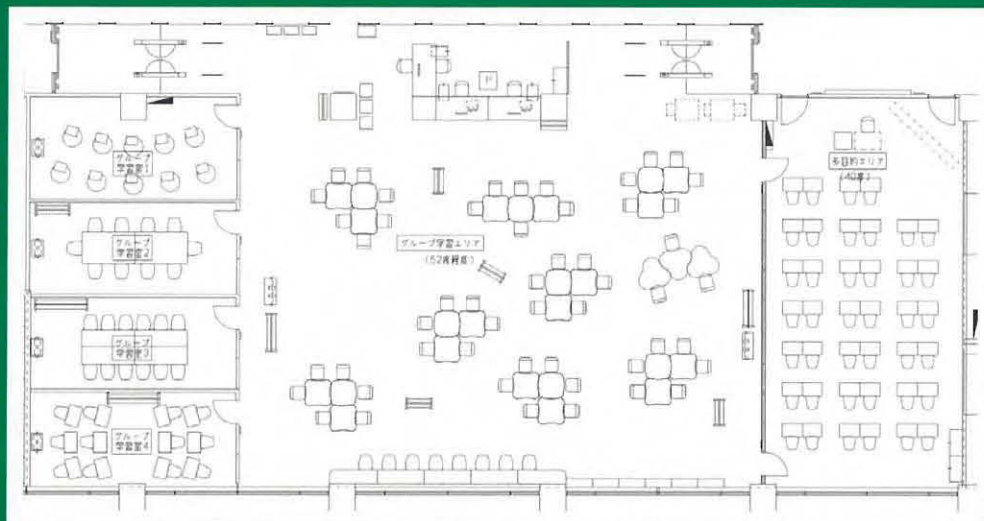
【グループエリア】

自由で活発なグループ学習ができる広大なスペースです。

従来の1Fに加えて2FカウンターでもPC貸出を行います。

ラーニングアドバイザーも1F

カウンターからこちらへ移動してきて、一層気軽に相談できるようになります。



グループ学習室

グループエリア

多目的スタジオ

【多目的スタジオ】

図書館の講習会が行われるほか、グループワークなどで自由に利用することもできるスペースです。

Your Library 第18号 (通号77)

発行日 2012年2月17日

編集 井川 充雄 (図書館副館長)

発行人 石川 巧 (図書館館長)

発行 立教大学図書館

<http://www.rikkyo.ac.jp/research/library/>

連絡先 TEL 03-3985-2630

YOUR LIBRARY

2012年12月

2012年度 図書館 年報

読者のために、読者のために、読者のために

読者のために、読者のために、読者のために



発行所 立大中央図書館
〒100-8302 東京都千代田区千代田1-3-1

印刷所 株式会社印刷センター
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

発行所 立大中央図書館
〒100-8302 東京都千代田区千代田1-3-1

学生の確保の見通しを記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

○全体の概要

全国の高校生を対象にした「志願したい大学」等の調査（資料1）によると、本学は「関東エリア」ではほぼ全ての項目で高い評価を得ているが、それ以外のエリアでは苦戦している。また、キャンパスが東京及び埼玉にあること並びに2011（平成23）年度～2016（平成28）年度における本学への志願者及び2011（平成23）年度～2015（平成27）年度における本学の入学者の出身高校の所在地は、下表のとおり約75%が首都圏（東京、埼玉、千葉及び神奈川）であることから、全国的に著名な首都圏の国公立大学と首都圏在住の受験生の獲得を競合している。

そのような状況の中、「②学生確保に向けた具体的な取組状況」に記載のとおり、学生確保に向けての積極的な取組みを行ってきたことにより、高い水準での一般入試（大学入試センター試験利用入試を含む。以下同じ。）における志願倍率（志願者数／入学定員。以下同じ。）の維持に繋げてきた（資料2）。近年は、「Rikkyo Global 24」の公表など、国際化に関連した取組みを積極的に行っており、外国人留学生入試における志願者の増加（2016（平成28）年度は、全27学科中26学科で対前年度比増）（資料3）等の成果が出てきていることから、本申請による収容定員の増加後も現在と同水準又はそれ以上の学生を確保できる見込みである。

【志願者における東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県出身者の割合（％）】

2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	平均
74.69	71.47	72.57	76.44	77.95	79.3	75.4

【入学者における東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県出身者の割合（％）】

2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	平均
76.69	76.01	77.47	79.21	78.33	77.5

○文学部

・学部共通

若干名としていた外国人留学生の募集定員（書類選考による募集。以下同じ。）を18名とする。

・キリスト教学科

増加分の6名（入学定員。以下同じ。）は日本人学生を想定している。

本学科では、分野の特性もあり、外国人留学生の志願者数（資料3。以下同じ。）が多くない。しかし、一般入試における志願倍率（資料2。以下同じ。）については、直近5年間の平均が約14倍であること及び昨年度は直近5年間で最高倍率（17.56倍）であったことから、増加後の入学定員（49名）を十分に充足する見込みである。

- ・ 史学科

増加分の 20 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 3 : 7 程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が増加傾向にあり、2016（平成 28）年度は直近 5 年間で最大であった（27 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が 20 倍を超えていることから、増加後の入学定員（214 名）を十分に充足する見込みである。

- ・ 文学科

増加分の 74 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 2 : 8 程度を想定している。

本学科では、2011（平成 23）年の震災後、外国人留学生の志願者数が大幅に減少したが、近年は増加傾向にあり、2016（平成 28）年度は震災前の水準を上回った（67 名）。これは、経営学部経営学科に次いで学内で 2 番目に多い人数である。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が約 19 倍であることから、増加後の入学定員（537 名）を十分に充足する見込みである。

○経済学部

- ・ 学部共通

若干名としていた外国人留学生の募集定員を 14 名とする。

- ・ 経済学科

増加分の 35 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 2 : 8 程度を想定している。

本学科では、2011（平成 23）年の震災後、外国人留学生の志願者数が減少したが、近年は増加傾向にあり、2016（平成 28）年度は震災前の水準を上回った（28 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が 20 倍を超えていることから、増加後の入学定員（330 名）を十分に充足する見込みである。

- ・ 会計ファイナンス学科

増加分の 20 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 2 : 8 程度を想定している。

本学科では、分野の特性もあり、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くないが、2016（平成 28）年度は、直近 5 年間で最大であった（17 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が約 18 倍であることから、増加後の入学定員（175 名）を十分に充足する見込みである。

- ・ 経済政策学科

増加分の 20 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 1 : 9 程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くないが、2016（平成 28）年度は、直近 5 年間で最大であった（5 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が 20 倍を超えていること及び昨年度は直近 5 年間で最高倍率（37.15 倍）であったことから、増加後の入学定員（175 名）を十分に充足する見込みである。

○理学部

- ・ 学部共通

若干名としていた外国人留学生の募集定員を 6 名とする。

- ・ 数学科

増加分の 6 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 2 : 8 程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くないが、2016（平成 28）

年度は、直近5年間で最大であった（7名）。また、一般入試における志願倍率については、直近5年間の平均が30倍を超えていることから、増加後の入学定員（66名）を十分に充足する見込みである。

・ **物理学科**

増加分の7名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は1：9程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くないが、2016（平成28）年度は、対前年度比約2倍であった（11名）。また、一般入試における志願倍率については、直近5年間の平均が30倍を超えていることから、増加後の入学定員（77名）を十分に充足する見込みである。

・ **化学科**

増加分の7名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は4：6程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くない。しかし、一般入試における志願倍率については、直近5年間の平均が30倍を超えていることから、増加後の入学定員（77名）を十分に充足する見込みである。

・ **生命理学科**

増加分の7名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は1：9程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くないが、2016（平成28）年度は、対前年度比約2倍であった（21名）。また、一般入試における志願倍率については、直近5年間の平均が30倍を超えていることから、増加後の入学定員（72名）を十分に充足する見込みである。

○ **社会学部**

・ **学部共通**

若干名としていた外国人留学生の募集定員を10名とする。

また、2016（平成28）年度から、グローバルな視点から日本と海外の社会・文化を理解し、地球市民として活躍できる人材を育成するため、国際社会コースを設置する。当該コースは、1学年各学科15名計45名で構成され、当該コース選択者は、学科の所属に関わらず学科横断的な「国際社会コース指定科目」を履修する（2年次に当該コースを選択）。当該コースの設置に伴い、新たに「国際コース選抜入試」（定員は各学科5名。他の学生と異なり入学時点で当該コースの選択が決定している。）を実施したところ、一定の志願者が集まった（社会学科6名、現代社会学科9名及びメディア社会学科8名）。

・ **社会学科**

増加分の15名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は2：8程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が増加傾向にあるとともに、2016（平成28）年度は、直近5年間で最も多い61名であった。これは、経営学部経営学科及び文学部文学科に次いで学内で3番目に多い人数である。また、一般入試における志願倍率については、直近5年間の平均が30倍を超えていることから、増加後の入学定員（170名）を十分に充足する見込みである。

・ **現代文化学科**

増加分の15名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は2：8程度を想定している。

本学科では、2016（平成 28）年度の外国人留学生の志願者数が、直近 5 年間で最大であった（24 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が約 19 倍であることから、増加後の入学定員（170 名）を十分に充足する見込みである。

・ **メディア社会学科**

増加分の 15 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 3 : 7 程度を想定している。

本学科では、2011（平成 23）年の震災後、外国人留学生の志願者数が減少したが、近年は増加傾向にあり、2016（平成 28）年度は震災前の水準を上回った（59 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が 20 倍を超えていることから、増加後の入学定員（170 名）を十分に充足する見込みである。

○ **法学部**

・ **学部共通**

若干名としていた外国人留学生の募集定員を 12 名とする。

・ **法学科**

増加分の 35 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 2 : 8 程度を想定している。

本学科では、分野の特性もあり、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くないが、2016（平成 28）年度は、直近 5 年間で最大であった（8 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が 20 倍を超えていることから、増加後の入学定員（360 名）を十分に充足する見込みである。

・ **政治学科**

増加分の 10 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 1 : 9 程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くないが、2016（平成 28）年度は、直近 5 年間で最大かつ対前年度比約 10 倍であった（11 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が 20 倍を超えていることから、増加後の入学定員（110 名）を十分に充足する見込みである。

・ **国際ビジネス法学科**

増加分の 10 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 5 : 5 程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くないが、2016（平成 28）年度は直近 5 年間で最大かつ対前年度比約 2 倍であった（19 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が約 18 倍であることから、増加後の入学定員（115 名）を十分に充足する見込みである。

○ **観光学部**

・ **学部共通**

若干名としていた外国人留学生の募集定員を 8 名とする。

・ **観光学科**

増加分の 20 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 4 : 6 程度を想定している。

本学科では、年度により外国人留学生の志願者数にばらつきがあるが、2016（平成 28）年度は直近 5 年間で最大であった（56 名）。さらに、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が 20 倍を超えていることから、増加後の入学定員（195 名）を十分に充足する見込みである。

- ・ **交流文化学科**

増加分の 15 名は日本人学生を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くない。しかし、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が約 18 倍であることから、増加後の入学定員（175 名）を十分に充足する見込みである。

- **コミュニティ福祉学部**

- ・ **学部共通**

若干名としていた外国人留学生の募集定員を 8 名とする。

- ・ **福祉学科**

増加分の 14 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 1 : 9 程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くないが、2016（平成 28）年度は直近 5 年間で最大であった（19 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が約 15 倍であることから、増加後の入学定員（154 名）を十分に充足する見込みである。

- ・ **コミュニティ政策学科**

増加分の 14 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 3 : 7 程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くないが、2016（平成 28）年度は直近 5 年間で最大かつ対前年度比約 2 倍であった（13 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が約 17 倍であることから、増加後の入学定員（154 名）を十分に充足する見込みである。

- ・ **スポーツウエルネス学科**

増加分の 10 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 2 : 8 程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が学内の他学科と比べて多くないが、2016（平成 28）年度は直近 5 年間で最大かつ対前年度比 3 倍であった（9 名）。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が 20 倍を超えていることから、増加後の入学定員（110 名）を十分に充足する見込みである。

- **経営学部**

- ・ **学部共通**

若干名としていた外国人留学生の募集定員を 6 名とする。

- ・ **経営学科**

増加分の 20 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 2 : 8 程度を想定している。

本学科では、2011（平成 23）年の震災後、外国人留学生の志願者数が減少したが、2016（平成 28）年度は 69 名となり、震災前の水準を上回った。これは、学内で最も多い人数である。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が 20 倍を超えていることから、増加後の入学定員（230 名）を十分に充足する見込みである。

- ・ **国際経営学科**

増加分の 15 名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は 1 : 9 程度を想定している。

本学科では、年度により外国人留学生の志願者数にばらつきがあるが、直近 5 年間の平均は 22 名である。また、一般入試における志願倍率については、直近 5 年間の平均が 20 倍を超え

ていることから、増加後の入学定員（155名）を十分に充足する見込みである。

○現代心理学部

・学部共通

若干名としていた外国人留学生の募集定員を6名とする。

・心理学科

増加分の13名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は2：8程度を想定している。

本学科では、外国人留学生の志願者数が増加傾向にあり、2016（平成28）年度は直近5年間で最大であった（41名）。また、一般入試における志願倍率については、直近5年間の平均が20倍を超えていることから、増加後の入学定員（143名）を十分に充足する見込みである。

・映像身体学科

増加分の16名のうち、外国人留学生と日本人学生の割合は2：8程度を想定している。

本学科では、年度により外国人留学生の志願者数にばらつきがあるが、直近5年間の平均は約12名である。また、一般入試における志願倍率については、直近5年間の平均が約17倍であることから、増加後の入学定員（176名）を十分に充足する見込みである。

○異文化コミュニケーション学部

・異文化コミュニケーション学科

若干名としていた外国人留学生の募集定員を5名とする。よって、増加分の15名のうち、5名は外国人留学生、10名は日本人学生を想定している。

本学部では、2016（平成28）年度から、卒業に必要な専門科目を全て英語で学びながら、英語と日本語、2つの言語を駆使して4年間学んでいくプログラム（「Dual Language Pathway」）を設置する。当該プログラムの設置に伴い、「国際コース選抜入試」（定員15名）を設けるとともに、2016（平成28）年度からの収容定員に係る学則の変更を行った。その結果、当初の想定以上の志願者が集まった（31名）ことから、本学部については今回も収容定員を増加する。

さらに、2011（平成23）年の震災後、外国人留学生の志願者数が減少したものの、2016（平成28）年度は39名となり回復傾向にあるとともに、一般入試における志願倍率については、直近5年間の平均が40倍を超えていることから、増加後の入学定員（145名）を十分に充足する見込みである。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

○「高校生に聞いた 大学ブランドランキング 2015」（資料1）

リクルート進学総研が調査した当該調査によると、「志願したい大学」（全体／性別／文理別）、「知っている大学」（全体／性別／文理別）、「校風や雰囲気が良い」、「就職に有利である」、「教育方針・カリキュラムが魅力的である」、「学生の面倒見が良い」、「国際的なセンスが身につく」、「親しみやすい」及び「おしゃれな」の項目のうち、「関東エリア」では1つを除いて全てにランクインしている。また、ランクインしている項目のうち、下線を付した項目でランクが対前年比上昇又は変化なしであり、同エリアの受験生からの本学への評価は非常に高い。しかしながら、「東海エリア」及び「関西エリア」では全ての項目でランク外という結果になった。したがって、当該調査によると、本学に関心のある受験生の多くが「関東エリア」に在住していることが類推される。

○都道府県別出身校の統計<志願者及び在学生> (P1の表)

本学の志願者(2011(平成23)年度~2016(平成28年度))における都道府県別出身校の統計及び入学者(2011(平成23)年度~2015(平成27年度))における都道府県別出身校の統計によると、東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県の出身者が平均で75%以上を占めており、資料1の結果が裏付けられている。

上記の全国的な調査(資料1)及び本学の過年度のデータ(P1の表)から、本学への進学を志す受験生の大部分は関東に在住していることが読み取れる。東京及び埼玉にキャンパスがあるため、全国的に著名な首都圏の国公立大学と関東在住の受験生の獲得をめぐって競合しているところであるが、「学則変更の趣旨等を記載した書類」P3のグラフのとおり、本学の志願倍率は、全国の入学定員3,000人以上の大学及び東京に位置する大学における志願倍率の平均を上回っている。さらに、「学則変更の趣旨等を記載した書類」P3のとおり一般入試における志願倍率は直近5年間の平均で20倍を超えている。

○一般入試における志願倍率の推移(資料2)

2014(平成26)年度に若干の落ち込みがあったものの、直近5年間は全学平均で20倍を超えている。2015(平成27)年度は、学科別では、最大である異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科で約40倍、最小であるコミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科でも約14倍であり、高い倍率を維持している。また、下記「②学生確保に向けた具体的な取組状況」に記載のとおり、近年、本学の教育活動の可視化を積極的に行い、受験生、保護者等に向けて大きく広報活動を展開しているほか、外国人留学生入試等に続き、2017(平成29)年度から一般入試及び大学入試センター利用試験においてWeb出願システムの導入を予定しているため、今後も志願者が増加する見込みである。

○外国人留学生入試における志願者数及び入学者の推移(資料3)

2011(平成23)年以後、理学部を除く全ての学部で志願者数が減少したが、2013(平成25)年度以降は増加傾向にあり、それ以前の水準に戻りつつある。2016(平成28)年度の志願者数は、全27学科中21学科において直近5年間で最大となった。また、下記「②学生確保に向けた具体的な取組状況」に記載のとおり、Web出願システムの導入により、2015(平成27)年度及び2016(平成28)年度の外国人留学生の志願者数が同システムの導入前に比べて大幅に増加している。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

○中長期計画等の策定による教育活動の可視化

本学の教育活動を広く社会へ公表するため、2014(平成26)年5月に①「Rikkyo Global 24」(資料4)、2015(平成27)年7月に②「RIKKYO Learning Style」(資料5)及び同9月に③「RIKKYO VISION 2024」(資料6)を公表した。

①は本学の国際化戦略である。5月の公表後、改訂版の冊子(日英併記)を作成し、海外事務所(ロンドン、ニューヨーク及びソウル)等を通じて広く国内外に公表するとともに、動画(英語音声/日本語字幕)を併せて作成し、全世界へ配信した。これらにより、国際化戦略、達成目標、取組み内容等を周知した結果、海外大学との学生交流等に係る交渉に資することができた。また、当該国際化戦略に基づき、スーパーグローバル大学創成支援に申請し、タイプB(グローバル化牽引型)に採択された。

②は2016（平成28）年度から全学で展開される、新しいカリキュラムである。本学HP上に特設ページを設け、「コンセプト」、「ファーストタームプログラム」（1年次春学期のプログラム）、「学びの特長」、「履修モデル」及び「学びの環境」について紹介している。

③は創立150周年にあたる2024（平成36）年までの10年間に亘る長期計画である。VISION STATEMENTとして「Lead the Way 自分、世界、そして未来を拓く」を掲げるとともに、VISION 実現のための3つのValue（新たな価値）として「Lead for Learning（自分を拓く）」、「Lead for Globalization（世界を拓く）」及び「Lead for Future（未来を拓く）」を設定し、本学の今後10年間の方向性を示した。

なお、①～③はHPに特設ページを設けるとともに、記者発表を行い、報道機関を通じて本学の教育活動を広く社会へ公表したところである（資料7）。

○オープンキャンパス（2015（平成27）年8月）

オープンキャンパスを2015（平成27）年も開催した（資料8）。

2015（平成27）年度は、新たな試みとして、計5日間の開催のうち1日を「Rikkyo Global Open Campus」（国際化への取組みや支援体制等の紹介、英語による体験授業の実施等）として開催した。総来場者数は36,375名（対前年度比2,560名増）であり、多くの受験生等に本学の取組みを紹介した。

○Web出願システムの導入

2015（平成27）年度入試より、外国人留学生入試、帰国生入試及び社会人入試についてはWeb出願システムを導入するとともに、書類選考による募集を行うものについては、選考料の値下げ（15,000円←35,000円）を行った。この結果、外国人留学生入試（書類選考による募集に限る。）については、2015（平成27）年度は対前年度比123名増の439名、2016（平成28）年度は対前年度比213名増の652名からの出願があり、一定の効果が得られたところである。

なお、2017（平成29）年度入試からは、一般入試及び大学入試センター試験利用入試においても同システムを導入し、更なる出願数の増加を図る。

○各種イベントの開催及び参加

・進学相談会、大学説明会等への参加

ブース出展し、来訪した受験生、保護者等からの個別相談を受ける進学相談会、予備校等の教室でパワーポイント等を使用しながら説明する大学説明会等へ積極的に参加している。また、主管部局である入学センター職員に加え、学内から「入学アドバイザー」を募り、進学相談会及び大学説明会での説明に加え、オープンキャンパス、高校訪問及び予備校訪問において、受験生、保護者等に本学の魅力、取組み等をPRしている。

なお、訪問した高校名、担当者、面談内容等の情報については毎年蓄積し、いつでも閲覧できるよう、データベース化している。

・グローバル大学進学セミナーの開催（2015（平成27）年3月開催）

2016（平成28）年度入試からの4技能英語資格・検定試験を活用した新たな入試「グローバル方式」の導入に伴い、新高校2年生及び3年生とその保護者を対象に、当該入試方式の説明、資格試験の無料体験、授業体験等を行う「グローバル大学進学セミナー」を開催した（資料9）。当日は、高校1年生から3年生等及び保護者の計909名の来場があり、本学の取組みに多くの関心が寄せられていることが明らかになった。

・グローバル教育高大連携研究会の開催（2015（平成27）年9月開催）

グローバル化や高大連携といった観点に留まらず、高校教育現場の変化を直接知る機会を設けるため、スーパーグローバルハイスクール指定校の教員等を招き、「グローバル教育高大連携研究会」を開催した。当日は、27校から50名の参加があり、本学の教育カリキュラムを具体的に参加校に伝えた。なお、第2回は2016（平成28年）3月19日に実施する予定である。

・Go Global Japan Expo への積極的な参加

（第2回2014（平成26）年12月、第3回2015（平成27）年12月）

関西学院大学で開催された第2回及び明治大学で開催された第3回に参加し、ブース出展を行った。

第2回での本学のブースには40名以上の来場者があり、本学の留学制度、選考方法、語学要件等についての質問に対応した。また、別途与えられたプレゼンテーションの時間の際には、一般入試における「グローバル方式」等新たな取組みに関する広報を行った。

第3回での本学のブースには50名の来場者があり、要求される語学要件など、留学に関する具体的な質問が多く寄せられた。また、第3回では、大学紹介プレゼンテーションにおいて学生プレゼンターを起用し、参加者（高校生、保護者等）に海外体験プログラムの概要説明を行った。

（2）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学の教育目的は資料10のとおりであり、HPに掲載している。

また、2014（平成26）年5月に公表した「Rikkyo Global 24」（資料4／再掲）及び2015（平成27）年9月に公表した「RIKKYO VISION 2024」（資料6／再掲）では、下表のとおり養成する人材像を定めている。

<p>「Rikkyo Global 24」</p>	<p>立教大学では、「専門性に立つグローバル教養人」の育成を目指しています。それは、グローバルな課題と社会的要請に対応し、広い視野に立って課題を発見・解決できる能力を持つ人材です。リベラルアーツ教育を基盤とし、立教大学が独自に開発した「新しい」リーダーシップ教育を全学的に展開することにより、「自ら考え（＝思考力）、行動し（＝変革力）、世界と共に生きる（＝共感・協働力）」ことのできる「新しい」グローバルリーダーを輩出していきます。</p>
<p>「RIKKYO VISION 2024」</p>	<p>未知の課題に果敢に挑む「豊かな知性」と「折れない心」を育てます。 自ら考え、行動し、人と人、想いと想いをつなぎ、実りある未来へと、強く道を拓いてゆける人材を輩出していきます。</p>

②①が社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

以下のとおり、①で示した全学及び10学部の教育研究目的並びに「Rikkyo Global 24」（国際化戦略）及び「RIKKYO VISION 2024」（10年間の長期計画）と公益社団法人経済同友会（以下「同友会」という。）及び一般社団法人日本経済団体連合会（以下「経団連」という。）の提言及びアンケート結果を比較すると、非常に多くの部分で類似性が認められる。

よって、本学の人材養成に関する人材像や教育研究上の目的は、グローバル人材の育成に代表される昨今の社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであると言える。

○社会が求める人材

同友会が2014（平成26）年12月に公表した「企業の採用と教育に関するアンケート調査結果」（資料11）によると、「学校教育に期待すること」という問いに対する回答では、「人格的要素」で「対人コミュニケーション能力の養成」（第1位）、「自立心の養成」（第2位）及び「ストレス耐性」（第3位）が上位を占めた。

また、同友会が2015（平成27）年4月2日に公表した「これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～」（資料12）では、企業が求める資質能力として、下表の4点を示しており、上記アンケート結果と同表「1.」～「4.」はほぼ同内容である。

これらの点は、以下のように上記①に含まれている。

「1.」については、文学部の「主体的な批判精神」、理学部の「課題解決能力」及び観光学部の「諸課題の解決を担う総合的な判断力」に、「2.」については、全学の「様々な学習体験・社会経験ができる機会の提供」に、「3.」については、全学の「異なる価値観を持った人々と協働してプロジェクトを遂行できるようになる教育」及び社会学部の「他者への想像力を豊かにもった人間」に、「4.」については、異文化コミュニケーション学部の「複眼的な視点から多文化共生社会の進展に貢献」に、それぞれ含まれている。

さらに、全学部を網羅した上記①「Rikkyo Global 24」及び「RIKKYO VISION 2024」での養成する人材像における、「思考力」及び「変革力」は「1.」及び「2.」に、「共感・協働力」は「3.」及び「4.」に、それぞれ含まれている。

1.	変化の激しい社会で、課題を見出し、チームで協力して解決する力 (課題設定力・解決力)	<ul style="list-style-type: none"> 常に社会情勢に関心をもつこと、常に社会情勢に関心を持つこと、世の中の出来事を当たり前のこととは捉えず、なぜそうなるかを自分なりに考える習慣をもつことが必要である 他者に何が課題かを説明し、課題解決の必要性について理解を得て、協働していくための双方での対話力（コミュニケーション能力）、課題解決に向けた企画力、実行力が求められる
2.	困難から逃げずに向き合い、乗り越える力 (耐力・胆力)	<ul style="list-style-type: none"> 社会に出ると否応なく多くの試練に直面するが、それらを乗り越える「耐力」を備えておくことが重要である 「耐力」を備えるためには、学生時代から様々なことにチャレンジすることが重要である
3.	多様性を尊重し、異文化を受入れながら組織力を高める力	<ul style="list-style-type: none"> 組織内では、自分と異なる価値観を持つ相手とともに成長し、組織全体の力を高めていける人材が必要である
4.	価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合う対話力 (コミュニケーション能力)	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力とは対話力であり、企業内外の公の場で、上司や部下、同僚、あるいは顧客等、相手の主張を正しく理解して円滑に対話できる能力であり、交渉力も含まれる 円滑なコミュニケーションを図るためには、個人として信頼される人間力の豊かさ、価値観の異なる相手と相互に認め合い、学び合う姿勢（協調性）、相手をよく理解して自己の考えを明確に伝えるための知識や教養が不可欠である

○グローバル人材の育成

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」に記載のとおり、大学の国際化やそれに伴うグローバル人材の育成については、大学に寄せられる社会からの期待は非常に大きい。

経団連は、2011（平成23）年6月に「グローバル人材の育成に向けた提言」を公表するとともに、2013（平成25）年6月には「世界を舞台に活躍できる人づくりのためにーグローバル人材の育成に向けたフォローアップ提言ー」（以下「フォローアップ提言」という。）（資料13）を、2015（平成27）年3月には「グローバル人材の育成・活用に向けて求められる取組に関するアンケート結果」（以下「アンケート」という。）（資料14）を公表している。

このフォローアップ提言（概要版）では、「高等教育で求められる取り組み」（対象は大学、政府、企業）として、下表の4点を示している。

このうち、(1)から(3)までは、「RIKKYO VISION 2024」の「Lead for Globalization（世界を拓く）」に加え、以下のように「Rikkyo Global 24」の24のプロジェクトに含まれていると言える（(4)については、企業が対象と思われる。）。

(1)については、「PROJECT 21」において、一般入試でのIELTS等の外部試験の活用を掲げ、2016（平成28）年度入試から「グローバル方式」（P8参照）を導入したところである。(2)については、上記①の表「Rikkyo Global 24」の項に記載のとおり、全学でリベラルアーツ教育を重視しているとともに、資料11のとおり、全学の教育目的において「専攻分野以外の学問領域に関して幅広い知識を習得することが可能な教育」を掲げている。(3)については、「Rikkyo Global 24」の「PROJECT 01」から「PROJECT 12」までにおいて海外への学生派遣の拡大及び外国人留学生の受け入れの拡大を、「PROJECT 13」から「PROJECT 18」までにおいて教育・研究環境の整備（秋入学、4学期制の導入等）を、「PROJECT 19」から「PROJECT 24」までにおいて国際化推進のガバナンスの強化（外国人教員比率の増加、職員の国際化対応力の強化等）をそれぞれ掲げている。

(1)	高大接続の改善と入試改革の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・高校修了時の必要最低限な学力を測る「高大接続テスト」等の導入 ・意欲、能力、適正等を多面的・総合的に判断する入試制度を検討 ・入試において、TOEFL等の英語の4技能を測る外部試験や、IB資格を活用
(2)	教養教育（リベラル・アーツ教育）の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルに活躍するには、専門分野以外に多様な分野の教養を身につける必要（文科系は数学、自然科学の基礎、理工系は人文・社会科学の基礎等） ・リーディング大学院への取り組みを通じて、専門性と複合領域にまたがる知識を備えた、博士人材を育成
(3)	大学の国際化のさらなる加速	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向の留学生交流の更なる拡大や、海外大学との教育連携の推進 ・大学教職員のグローバル化対応力の強化 ・秋入学への移行やクォーター制の導入など、学事暦の多様化
(4)	学生な多様な体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャップイヤーなど、大学・学生のグローバル化に資する取り組みを積極的に評価

また、アンケートにおける、「大学に期待する取り組み」という項目に係る質問項目及び回答結果は次ページの表のとおりである。

このうち、(1)については、上記同友会が示した「企業が求める資質能力」とほぼ同内容であり、「Rikkyo Global 24」における「思考力」、「変革力」及び「共感・協働力」とも重なる。(2)及び(3)については、第1位から第5位までの各項目は、フォローアップ提言（概要版）と同様、「Rikkyo Global 24」における「PROJECT 01」から「PROJECT 24」までに多くが含まれている。

(1)	産業界が大学卒業時に学生が身につけていることを期待する 素質、能力、知識	(第1位) 主体性 (第2位) コミュニケーション能力 (第3位) 実行力 (第4位) チームワーク・協調性 (第5位) 課題発見・解決力
(2)	グローバル人材育成に向けて大学に期待する取り組み	(第1位) 日本人学生の海外留学の奨励 (第2位) 学生の意欲・能力、適性や高校時代の体験活動等を総合的に判断する大学入試への改革 (第3位) 外国人留学生の受入れ拡大に向けた取り組み (第4位) ギャップ・イヤー等を利用した多様な体験活動の奨励 (第5位) 英語の4技能を測る外部検定試験を大学入試や卒業認定で活用
(3)	大学に取り組んでほしい教育方法やカリキュラム改革	(第1位) 一方的な講義ではなく、学生の能動的学び等を促す双方向型の授業の実施 (第2位) 企業の経営幹部・実務者からグローバル・ビジネスの実態を学ぶカリキュラムの実施 (第3位) 専門科目を英語で履修するカリキュラムの構築 (第4位) 教養教育（リベラル・アーツ教育）の拡充 (第5位) 海外大学との連携によるジョイント・ディグリー・プログラム等の実施

学生の確保の見通し等を記載した書類に係る添付資料

(目次)

資料 1	高校生に聞いた 大学ブランドランキング 2015	・・・	1
資料 2	一般入試における志願者、受験者及び志願倍率の推移 (2011(平成23)年度～2015(平成27)年度)	・・・	13
資料 3	外国人留学生入試における志願者数及び入学者の推移 (2011(平成23)年度～2015(平成27)年度)	・・・	15
資料 4	Rikkyo Global 24		(冊子)
資料 5	RIKKYO Learning Style (「学則の変更の趣旨等を記載した書類に係る添付資料」資料1参照)		(冊子)
資料 6	RIKKYO VISION 24		(冊子)
資料 7	記者発表に関連する新聞報道等	・・・	17
資料 8	オープンキャンパス (HP)	・・・	21
資料 9	グローバル大学進学セミナー	・・・	23
資料 10	全学及び各学部の教育目的	・・・	25
資料 11	「企業の採用と教育に関するアンケート調査」結果 ＜抜粋＞(経済同友会(2014.12))	・・・	27
資料 12	これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待 ～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～ ＜抜粋＞(経済同友会(2015.4.2))	・・・	35
資料 13	世界を舞台に活躍できる人づくりのために ーグローバル人材の育成に向けたフォローアップ提言ー 【概要版】＜抜粋＞(経団連(2013.6.13))	・・・	39
資料 14	グローバル人材の育成・活用に向けて求められる取組に関する アンケート結果＜抜粋＞(経団連(2015.3.17))	・・・	43

資料1 省略

1, 書類等の題名

高校生に聞いた 大学ブランドランキング2015

2, 出典

株式会社リクルートホールディングス

3, 引用範囲

ウェブページ「リクナビ進学」

http://shingakunet.com/rnet/column/brand_column/

http://shingakunet.com/rnet/column/brand_column/02.html

http://shingakunet.com/rnet/column/brand_column/03.html

http://shingakunet.com/rnet/column/brand_column/08.html

4, その他の説明

特になし

一般入試における志願者、受験者及び志願倍率の推移（2011（平成23）年度～2015（平成27）年度）

※各年度の「志願者」は、一般入試志願者数と大学入試センター試験利用入試志願者数の合算
 ※各年度の「受験者」は、一般入試受験者数と大学入試センター試験利用入試志願者数の合算

学部学科名等	2011				2012				2013				2014				2015				5年平均倍率
	志願者	受験者	募集定員	倍率	志願者	受験者	募集定員	倍率	志願者	受験者	募集定員	倍率	志願者	受験者	募集定員	倍率	志願者	受験者	募集定員	倍率	
文学部	11,147	10,828	565	19.73	11,707	11,360	565	20.72	12,227	11,850	565	21.64	10,098	9,782	565	17.87	11,028	10,716	576	19.15	19.82
キリスト教学科	389	373	30	12.97	351	339	33	10.64	553	534	33	16.76	416	400	33	12.61	597	581	34	17.56	14.11
史学科	2,342	2,289	110	21.29	2,177	2,125	114	19.10	2,634	2,560	114	23.11	2,107	2,060	114	18.48	2,259	2,204	115	19.64	20.32
教育学科	1,906	1,855	85	22.42	2,189	2,132	70	31.27	2,030	1,969	70	29.00	1,625	1,576	70	23.21	1,948	1,898	72	27.06	26.59
文学科	6,510	6,311	340	19.15	6,990	6,764	348	20.09	7,010	6,787	348	29.14	5,950	5,746	348	17.10	6,224	6,033	355	17.53	18.80
経済学部	9,908	9,661	440	22.52	9,111	8,794	440	20.71	8,824	8,474	450	19.61	9,519	9,172	450	21.15	11,412	11,151	450	25.36	23.87
経済学科	5,853	5,687	212	27.61	4,958	4,764	212	23.39	5,089	4,827	220	23.13	4,772	4,560	220	21.69	5,077	4,922	220	23.08	21.78
会計ファイナンス学科	1,795	1,750	114	15.75	2,242	2,181	114	19.67	1,183	1,141	115	10.29	2,987	2,897	115	25.97	2,063	2,003	115	17.94	17.92
経済政策学科	2,260	2,224	114	19.82	1,911	1,849	114	16.76	2,552	2,506	115	22.19	1,760	1,715	115	15.30	4,272	4,226	115	37.15	22.25
理学部	7,357	7,210	211	34.87	7,165	7,005	211	33.96	7,567	7,415	211	35.86	7,272	7,087	211	34.46	6,447	6,273	211	30.55	33.94
数学科	1,618	1,583	46	35.17	1,637	1,613	46	35.59	1,406	1,378	46	30.57	1,370	1,341	46	29.78	1,167	1,141	46	25.37	31.30
物理学科	1,709	1,683	55	31.07	1,880	1,838	55	34.18	2,012	1,973	55	36.58	1,802	1,756	55	32.76	1,758	1,718	55	31.96	33.31
化学科	2,152	2,120	55	39.13	1,876	1,831	55	34.11	2,065	2,023	55	37.55	2,225	2,175	55	40.45	1,778	1,729	55	32.33	36.71
生命理学科	1,878	1,824	55	34.15	1,772	1,723	55	32.22	2,084	2,041	55	37.89	1,875	1,815	55	34.09	1,744	1,685	55	31.71	34.01
社会学部	8,548	8,323	345	24.78	9,175	8,807	345	26.59	9,235	8,881	345	26.77	8,040	7,710	345	23.30	8,142	7,846	345	23.60	25.01
社会学科	3,477	3,365	115	30.23	4,008	3,822	115	34.85	3,527	3,359	115	30.67	3,554	3,382	115	30.90	3,550	3,392	115	30.87	31.51
現代文化学科	2,110	2,060	115	18.35	2,251	2,168	115	19.57	2,881	2,799	115	25.05	1,687	1,626	115	14.67	2,136	2,074	115	18.57	19.24
メディアイノベーション学科	2,961	2,898	115	25.75	2,916	2,817	115	25.36	2,827	2,723	115	24.58	2,799	2,702	115	24.34	2,456	2,380	115	21.36	24.28
法学部	7,652	7,526	325	23.54	6,559	6,399	325	20.18	8,171	8,026	325	25.14	6,816	6,673	325	20.97	6,847	6,709	325	21.07	22.18
法学科	4,237	4,161	200	21.19	4,057	3,951	200	20.29	5,040	4,935	200	25.20	4,371	4,277	200	21.86	4,698	4,601	200	23.49	22.40
政治学科	1,801	1,775	60	30.02	1,486	1,456	60	24.77	1,921	1,894	60	32.02	1,401	1,361	60	23.35	1,240	1,208	60	20.67	26.16
国際ビジネス法学科	1,614	1,590	65	24.83	1,016	992	65	15.63	1,210	1,197	65	18.62	1,044	1,035	65	16.06	909	900	65	13.98	17.82
観光学部	4,424	4,326	250	17.70	4,848	4,755	250	19.39	4,753	4,653	250	19.01	4,939	4,823	250	19.76	4,842	4,715	250	19.37	19.04
観光学科	2,423	2,371	135	17.95	2,637	2,588	135	19.53	2,652	2,588	135	19.64	3,014	2,946	135	22.33	2,781	2,711	135	20.60	20.01
交流文化学科	2,001	1,955	115	17.40	2,211	2,167	115	19.23	2,101	2,065	115	18.27	1,925	1,877	115	16.74	2,061	2,004	115	17.92	17.91
コミュニケーション福祉学部	4,789	4,680	265	18.07	5,174	5,022	265	19.52	5,447	5,289	270	20.17	4,284	4,191	270	15.87	4,597	4,448	265	17.35	18.20
福祉学科	1,689	1,635	105	16.09	1,502	1,445	105	14.30	2,036	1,958	105	19.39	1,117	1,082	105	10.64	1,578	1,519	100	15.78	15.24
コミュニケーション政策学科	1,613	1,583	105	15.36	2,130	2,074	105	20.29	1,894	1,842	105	18.04	1,618	1,579	105	15.41	1,436	1,387	105	13.68	16.55
スポーツウエルネス学科	1,487	1,462	55	27.04	1,542	1,503	55	28.04	1,517	1,489	60	25.28	1,549	1,530	60	25.82	1,583	1,542	60	26.38	26.51
経営学部	6,327	6,184	235	26.92	7,452	7,255	235	31.71	6,455	6,267	235	27.47	6,018	5,790	235	25.61	5,896	5,725	235	25.09	27.36
経営学科	4,271	4,176	145	29.46	4,933	4,813	145	34.02	4,136	4,011	145	28.52	4,126	3,971	145	28.46	4,203	4,086	145	28.99	29.89
国際経営学科	2,056	2,008	90	22.84	2,519	2,442	90	27.99	2,319	2,256	90	25.77	1,892	1,819	90	21.02	1,693	1,639	90	18.81	23.29
現代心理学部	4,310	4,177	186	23.17	4,324	4,224	186	23.25	4,503	4,395	186	24.21	3,408	3,314	186	18.32	3,684	3,574	186	19.81	21.75
心理学科	2,483	2,407	80	31.04	2,580	2,518	80	32.25	2,572	2,492	80	32.15	1,846	1,794	80	23.08	1,923	1,863	80	24.04	28.51
映像身体学科	1,827	1,770	106	17.24	1,744	1,706	106	16.45	1,931	1,903	106	18.22	1,562	1,520	106	14.74	1,761	1,711	106	16.61	16.65
異文化コミュニケーション学部	3,375	3,328	83	40.66	3,937	3,876	83	47.43	3,914	3,857	83	47.16	3,540	3,475	83	42.65	3,456	3,407	83	41.64	43.91
異文化コミュニケーション学科	3,375	3,328	83	40.66	3,937	3,876	83	47.43	3,914	3,857	83	47.16	3,540	3,475	83	42.65	3,456	3,407	83	41.64	43.91
合計	67,837	66,243	2,905	23.35	69,452	67,497	2,905	23.91	71,096	69,107	2,920	24.35	63,934	62,017	2,920	21.90	66,351	64,564	2,926	22.88	23.24

外国人留学生入試における志願者及び入学者の推移（2011（平成23）年度～2016（平成28）年度）

学部学科名等	2011（平成23）年度		2012（平成24）年度		2013（平成25）年度		2014（平成26）年度		2015（平成27）年度		2016（平成28）年度		平均	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
文学部	60	10	36	10	32	8	52	8	63	15	114	59.5	10.2	
キリスト教学科	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0.7	0.2	
史学科	7	2	6	3	10	2	8	3	16	5	27	12.3	3	
教育学科	12	2	8	2	7	4	18	1	15	1	19	13.2	2	
文学科	41	6	19	4	15	2	26	4	32	9	67	33.3	5	
経済学部	41	3	20	1	17	4	24	2	28	1	50	30.0	2.2	
経済学科	25	2	14	1	9	3	13	0	19	1	28	18.0	1.4	
会計ファイナンス学科	12	1	5	0	7	1	8	2	6	0	17	9.2	0.8	
経済政策学科	4	0	1	0	1	0	3	0	3	0	5	2.8	0	
理学部	11	0	16	0	11	2	19	0	23	2	45	20.8	0.8	
数学科	2	0	0	0	0	0	0	0	5	1	7	2.3	0.2	
物理学科	1	0	2	0	2	1	3	0	5	0	11	4.0	0.2	
化学科	3	0	7	0	3	1	8	0	4	1	6	5.2	0.4	
生命理学科	5	0	7	0	6	0	8	0	9	0	21	9.3	0	
社会学部	83	9	68	6	58	8	78	12	110	13	144	90.2	9.6	
社会学科	29	2	26	2	19	2	23	3	37	3	61	32.5	2.4	
現代文化学科	14	2	19	4	8	1	18	4	15	3	24	16.3	2.8	
メディアア社会科学	40	5	23	0	31	5	37	5	58	7	59	41.3	4.4	

学部学科名等	2011 (平成23)年度		2012 (平成24)年度		2013 (平成25)年度		2014 (平成26)年度		2015 (平成27)年度		2016 (平成28)年度	平均	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	志願者	入学者
	法学部	13	2	7	2	10	3	11	3	14	6	38	15.5
法学科	6	1	1	1	4	1	4	2	5	2	8	4.7	1.4
政治学科	0	0	0	0	4	2	3	0	1	1	11	3.2	0.6
国際ビジネス法学科	7	1	6	1	2	0	4	1	8	3	19	7.7	1.2
観光学部	52	5	43	3	27	3	32	4	58	5	63	45.8	4
観光学科	40	5	36	3	20	3	27	4	51	5	56	38.3	4
交流文化学科	12	0	7	0	7	0	5	0	7	0	7	7.5	0
コミュニティ福祉学部	36	6	17	5	18	6	20	4	21	6	41	25.5	5.4
福祉学科	9	0	4	0	6	2	4	0	12	3	19	9.0	1
コミュニケーション政策学科	22	4	10	5	10	4	9	3	6	1	13	11.7	3.4
スポーツウエルネス学科	5	2	3	0	2	0	7	1	3	2	9	4.8	1
経営学部	93	8	66	9	71	6	58	6	72	12	98	76.3	8.2
経営学科	62	7	49	6	50	3	33	3	54	9	69	52.8	5.6
国際経営学科	31	1	17	3	21	3	25	3	18	3	29	23.5	2.6
現代心理学部	28	6	21	4	26	4	26	5	48	6	60	34.8	5
心理学科	11	2	14	1	14	1	15	3	36	3	41	21.8	2
映像身体学科	17	4	7	3	12	3	11	2	12	3	19	13.0	3
異文化コミュニケーション学部	48	3	22	6	24	5	15	6	24	9	39	28.7	5.8
異文化コミュニケーション学科	48	3	22	6	24	5	15	6	24	9	39	28.7	5.8
合計	465	52	316	46	294	49	335	50	461	75	692	427.2	54.4

資料4 省略

1, 書類等の題名

Rikkyo Global 24

2, 出典

立教大学

3, 引用範囲

ウェブページ「Rikkyo Global 24」

http://www.rikkyo.ac.jp/feature/brochure/book/eb_rg24/

4, その他の説明

特になし

資料5 省略

1, 書類等の題名

RIKKYO Learning Style

2, 出典

立教大学

3, 引用範囲

ウェブページ「RIKKYO Learning Style」

<http://www.rikkyo.ac.jp/learningstyle/common/pdf/pamphlet.pdf>

4, その他の説明

特になし

資料6 省略

1, 書類等の題名

RIKKYO VISION 2024

2, 出典

立教大学

3, 引用範囲

ウェブページ「RIKKYO VISION 2024」

<http://rikkyo-vision.jp/>

4, その他の説明

特になし

資料7 省略

1, 書類等の題名

記者発表に関連する新聞報道等

2, 出典

読売新聞、日刊工業新聞、日本経済新聞、日本経済産業新聞（審査資料掲載順）

3, 引用範囲

読売新聞 2014年5月15日 コラム「学ぶ育む」

日刊工業新聞 2014年5月15日 コラム「フラッシュ」

日本経済新聞 2015年10月16日 記事「国際人材育成へ副専攻」

日刊工業新聞 2015年10月16日 記事「3テーマ掲げグローバル化」

日経産業新聞 2015年10月19日 記事「立教大、10学部の教育刷新」

日刊工業新聞 2015年10月20日 コラム「レーザー」

日本経済新聞 2015年10月21日 記事「立教大、中長期で国際化推進」

4, その他の説明

特になし



オープンキャンパス

オープンキャンパス

オープンキャンパス池袋イベント

オープンキャンパス新座イベント

オープンキャンパス

OPEN CAMPUS



2015年度オープンキャンパス日程（予約不要・入退場自由）

2015年度オープンキャンパスは終了いたしました。

多数の方にご来場いただき、誠にありがとうございました。

オープンキャンパス以外でもご自由に校内をご見学いただけます。

オープンキャンパスへご来場いただけなかった方は、ぜひお気軽にお越しください。

大学見学については、こちらをご覧ください。

本年度の各キャンパスの開催風景はこちらをご覧ください → [池袋](#) ・ [新座](#)

Rikkyo Global Open Campus

8月5日（水） 10:00～16:00 ※終了しました（来場者数 約10,325人）

学部説明：全10学部

体験授業：多彩な学び、多様な言語、全10学部（学部単位）

*基本的に英語による体験授業になります。

池袋キャンパス

オープンキャンパス

8月6日（木） 10:00～16:00 ※終了しました（来場者数 約10,180人）

学部説明：文、異文化コミュニケーション、理、観光、現代心理

体験授業：多彩な学び、多様な言語、文、異文化コミュニケーション、理、観光、現代心理

池袋キャンパス

8月7日（金） 10:00～16:00 ※終了しました（来場者数 約9,660人）

学部説明：経済、経営、理、社会、法、コミュニティ福祉

体験授業：多彩な学び、多様な言語、経済、経営、理、社会、法、コミュニティ福祉

池袋キャンパス

8月21日（金） 10:00～16:00 ※終了しました（来場者数 約2,650人）

学部説明：観光、コミュニティ福祉、現代心理

体験授業：観光、コミュニティ福祉、現代心理

新座キャンパス

8月22日（土） 10:00～16:00 ※終了しました（来場者数 約3,560人）

学部説明：観光、コミュニティ福祉、現代心理

体験授業：観光、コミュニティ福祉、現代心理

新座キャンパス

各回共通のプログラム

大学の全体説明会 資料配付コーナー 資料閲覧コーナー 質問コーナー 立教生と話すコーナー
 キャンパスツアー 立教生によるトークライブ 映像身体学科施設見学ツアー（新座キャンパス） その他

注意事項

関連リンク

2014年度オープンキャンパス 来場者数（参考）

キャンパス	開催日時	来場者数
池袋	8月4日（水） 10:00～16:00	約10,935名
	8月5日（木） 10:00～16:00	約9,215名
	8月6日（金） 10:00～16:00	約8,485名
新座	8月22日（金） 10:00～16:00	約2,270名
	8月23日（土） 10:00～16:00	約2,910名

動画で紹介立教大学

立教大学の最新情報や過去のオープンキャンパスの体験授業をご紹介します。



立教大学へ、

そして世界へ羽ばたく第一歩を

踏み出そう。



立教大学 × Benesse グローバル大学進学セミナー開催!

4技能英語資格・検定試験を活用した新たな入試「グローバル方式」にチャレンジしよう!

in 立教大学池袋キャンパス

「英語が好き」「留学もしてみたい」「英語を活かせる仕事がしたい」そんな志望者の多い立教大学。立教大学は、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援(グローバル化牽引型)」にも採択され、今後国際化への様々な取り組みが強化されます。2016年度からは「GTEC CBT」などの英語検定試験を活用した「グローバル方式」の新入試により、約100名の募集が始まります。いち早く新入試の情報を入手して、世界で活躍する未来の自分へのスタートを切りませんか。

● 高校生だけの参加も可能ですが、将来の進路や学習法について家庭で考えるきっかけになるよう保護者との参加を推奨しております。

3月31日(火)

対象/立教大学の受験を考えている
新高2・3年生とその保護者

入場無料 要予約

午前の部 / 9:30 受付開始

午後の部 / 14:30 受付開始

午前と午後の部は同じ内容です。

ご都合にあわせていずれかの部にご参加ください。

立教大学 × Benesse
グローバル大学進学セミナー
3つの特別特典

当セミナー限定
立教大学を知る・聞く・学ぶ1日
※写真はイメージです。



1 立教大学での学びを知る
英語のライブ授業



2 立教大学の入試で活用できる
GTEC CBTを無料体験



3 立教大学新入試
「グローバル方式」を解説

この春、グローバル大学進学セミナーに参加して、いち早く受験生へと切り替えよう。 **詳細は裏面へ**

立教大学 × Benesse グローバル大学進学セミナー

3月31日(火)

in 立教大学池袋キャンパス **入場無料** **要予約**

対象/立教大学の受験を考えている
新高2・3年生とその保護者

立教大学の新しい入試方式「グローバル方式」を徹底説明。

プログラム

午前と午後の部は同じ内容です。
ご都合にあわせていずれかの部にご参加ください。

受付開始

午前の部 / 9:30 受付開始
午後の部 / 14:30 受付開始

午前の部 / 10:00 午後の部 / 15:00

受験生切り換え講演会

ベネッセより入試に向けた心構えを発信します。

立教大学特別講演

講演タイトル「世界で際立つ大学への改革 (仮)」

GTEC CBT無料体験

英語の4技能 (聞く・話す・読む・書く) 検定
「GTEC CBT」を無料で体験できます。

立教大学教員による授業体験

大学の英語による授業を体験できるチャンスです。

GTEC CBT受検案内

受検日、会場などについて具体的にお話しします。

進学相談会

午前の部 / 12:30
午後の部 / 17:30

大学進学、海外留学などについて個別に相談できます。

プログラムは変更の可能性があります。あらかじめご了承ください。



当日は、キャンパス内の見学OK! 雰囲気を知るチャンスです。

受付前やプログラム終了後に、キャンパス内を自由に見学してみよう!



Access

会場
立教大学池袋キャンパス
9号館大教室

住所
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

交通アクセス

JR線・東京外丸の内線・有楽町線・副都心線、
西武池袋線、東武東上線 「池袋駅」西口より徒歩10分
地下道を通してC3番出口から徒歩5分

お早めにお申し込みを!

お申込み多数の場合は先着順とさせていただきます。ご了承ください。

お申込み締切日

3月25日(水)

お申込み多数の場合、上記よりも先に締切ります。
ご了承ください。

● 午前の部のお申し込みはこちらから
<http://goo.gl/kMiDWr>

● 午後の部のお申し込みはこちらから
<http://goo.gl/ZEK2pt>

● お名前 ● 学年 ● 学校名 ● 緊急連絡先を入力いただきます。

全学及び各学部の教育目的

※HPから抜粋

学部名等	教育目的
全学	<p>「専門性に立つ教養人」を育成するために、以下のような4つの目的を掲げ、これらを統合した教育を実践する。</p> <p>【知識】 専攻する学問領域の「知」の体系を批判的な検証をふまえたうえで理解し、専攻分野以外の学問領域に関して幅広い知識を習得することが可能な教育。</p> <p>【技能】 「知」を検証・獲得・活用するために必要な具体的なスキルを習得することが可能な教育。とくに、学習および生活の場面において、ICTツール、日本語を含めた3つの言語なども用い、調べ、考え、まとめ、発表し、議論することができるようになるための教育。</p> <p>【態度】 地球および地域社会の一市民として、高い公共性と倫理性を持ち、異なる文化・ジェンダー・しょうがい等に対して自らに内在している偏見に気づいて修正しつつ、異なる価値観を持った人々と協働してプロジェクトを遂行できるようになる教育。</p> <p>【体験】 インターンシップ、キャリア教育、ボランティア活動、クラブ・サークル活動、正課外教育プログラム、といった様々な学習体験・社会体験ができる学習機会の提供。</p>
文学部	世界の多様な文学・言語・文化・歴史・思想・教育に関するテキストや事象に触れることを通じて、幅広い人文的教養と深い人間理解に裏打ちされ、主体的な批評精神をもって社会に貢献できる人間を育てる。
経済学部	幅広い視野と柔軟な頭脳をもって変動する経済社会に対応できる、自立的な思考能力をもった人材を社会に送り出す。
理学部	<p>教育と研究を通じて「科学の専門性を持った教養人」を育成することである。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学の専門知識を有し、専門分野を中心とした領域での課題解決能力を発揮する人材 2. これらの知識や能力を大学院教育によってさらに高度に発展させようという人材 <p>加えて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 自信と誇りを持って社会に出て、大学で学んだ科学的考え方を活用できる人材 <p>の育成をする。</p>
社会学部	<p>あたりまえにとらわれない柔らかな感性で社会に学び、「発見・分析・提言」できる、他者への想像力を豊かにもった人間を育てる。</p> <p>※新入生がもっている社会的カテゴリーを緩やかに崩し、あたりまえ（常識）にとらわれることなく、社会の現場から広く直接に学ぶことが社会学教育のスタートである。ここから社会学教育の中核である「発見・分析・提言」の学習・研究過程へと進む。最終的には「他者への想像力が豊かな人間」を育て、社会へ送り出すことが本学部における社会学教育の目的である。</p>
法学部	法学・政治学の素養を基礎として、法曹・行政・企業・ジャーナリズム・政治・NPOなど多様な分野でリーダーシップをとり、社会や組織の形成と発展を担うことができる人材を育成する。そのために必要な知識・技能・倫理を総合的に高める教育を実践する。
観光学部	観光関連分野に関する広範囲で高度な学識を持ち、諸問題の解決を担う総合的な判断力と優れたリーダーシップを備えた有為な人材を養成する。
コミュニティ福祉学部	コミュニティ福祉学部は、「いのちの尊厳のために(Vitae Dignitati)」という基本理念に立ち、教育研究を通じて、コミュニティを基盤とした福祉社会構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。
経営学部	価値観が多様化し急変する現代社会において、明確なビジョンと高潔さを有し、持続可能な社会の構築に向けて、経営学に関する専門知識を生かしつつリーダーシップを発揮する人材を育成する。
現代心理学部	本学部は「人間とは何か」という古くからの根本問題を、心、身体、映像に関する諸学を通じ、サイエンス、フィロソフィ、アートが融合した、現代世界にふさわしい方法で探究することをその目的とする。
異文化コミュニケーション学部	高度な言語能力とともに幅広い知識と国際的教養を備え、複眼的な視点から多文化共生社会の進展に貢献できる人材を育成する。

資料 11 省略

1, 書類等の題名

「企業の採用と教育に関するアンケート調査」結果

2, 出典

公益社団法人 経済同友会

3, 引用範囲

「企業の採用と教育に関するアンケート調査」結果（2014年調査） 2014年12月
表紙、1ページ、目次、8ページ、38～40ページ

4, その他の説明

特になし

資料 12 省略

1, 書類等の題名

これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待
～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～

2, 出典

公益社団法人 経済同友会

3, 引用範囲

これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待
～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～ 2015年4月2日
表紙、目次、5～6ページ

4, その他の説明

特になし

資料 13 省略

1, 書類等の題名

世界を舞台に活躍できる人づくりのために

ーグローバル人材の育成に向けたフォローアップ提言ー【概要版】

2, 出典

一般社団法人 日本経済団体連合会

3, 引用範囲

世界を舞台に活躍できる人づくりのために

ーグローバル人材の育成に向けたフォローアップ提言ー【概要版】2013年6月13日

表紙、1ページ、3～4ページ

4, その他の説明

特になし

資料 14 省略

1, 書類等の題名

グローバル人材の育成・活用に向けて求められる取り組みに関するアンケート結果

2, 出典

一般社団法人 日本経済団体連合会

3, 引用範囲

グローバル人材の育成・活用に向けて求められる取り組みに関するアンケート結果

2015年3月17日

表紙、2ページ、15～17ページ

4, その他の説明

特になし